

成蹊学園 広報



2011 Spring-Summer

vol. **81-82**

SEIKEI GAKUEN



小学校 運動会



中学校 夏の学校

2012年、成蹊学園創立100周年 成蹊学園の 新たな創造に向けて



インタビュー
桃李の
人々

株式会社 紀伊國屋書店代表取締役社長

高井 昌史

経済界、出版界で
一大人脈を築く成蹊 OB
卒業後も交流が続いています

Contents

- 2 ごあいさつ
- 6 東日本大震災に関する
学園からのご報告
- 8 桃李の人々 (高井 昌史)
- 11 成蹊教育のいま (大倉 元宏)
- 12 百年十話 —成蹊学園の歴史—
- 14 成蹊学園創立100周年
記念事業特集 (理工学部)
- 16 大学の近況
- 18 中学・高等学校の近況
- 19 小学校の近況
- 20 募金局より
- 22 2010年度決算および事業報告
- 24 2011年度事業計画・予算の概要
- 25 学園トピックス／学園組織・役職者一覧
- 26 2011年度入学試験結果
- 27 2012年度入学試験日程
- 28 成蹊教育を知る

蹊

Series 成蹊教育を知る

一九二四(大正三)年四月に設立された旧制成蹊中学校には、校友会組織として「不言会」がありました。不言会という名称は成蹊学園の校名の由来「桃李不言 下自成蹊」から来ています。発足当初置かれたのは庶務部、文芸部、運動部の三部で、生徒の中から委員と委員長が選出されました。一九二五(大正四)年には校友会誌「こみち」が発刊されます。不言会にはその後、園芸部と弁論部が置かれ、一九一八(大正七)年に運動部から庭球、蹴球、相撲、撃剣が独立し部に昇格します。

各部には主任(のち部長と改称)と呼ばれる先生が一人ずつ就いていました。運動部から独立した蹴球部の主任は、中学校で漢文を教えていた内野台嶺でした。東京高等師範学校(高師)在学中から選手、指導者として活躍した内野は、赴任先の学校でサッカーの普及に努め、一九一七(大正六)年には高師、豊島、青山の三師範学校を中心とするわが国初のクラブチーム「東京蹴球団」を結成した人物で、後に日本サッカー協会創設にも貢献し、シンボルマーク「三本の鳥」を発案した一人でもあります。

蹴球部は内野の後、数学の内田久三が部長となり活動を続けます。計画した大会当日の午前中、豪雨でグラウンドが水浸しとなり学校側から中止を命ぜられますが委員は決行を提議。生徒たちは排水や砂運びをして午後から試合を

協力と真剣の精神を養う —旧制成蹊中学校の「不言会」活動—

始め、大会は大成功に終わりました。一九二二(大正十)年には音楽部が置かれました。部長は童謡「夕焼小焼」ゆりかごの歌」を作曲した草川信です。翌年には美術部が発足し文化系の部が増えます。部長は大沼林右衛門。十日間にわたって中学アトリエで開催された「泰西名画複製展覧会」は、ジョットやミレ、セザンヌらの模写七十点余が出品されましたが、それは生徒自らが光線の具合や絵の配置を考え展示したものでした。

旧制成蹊中学校は一九二九(昭和四)年に廃校となりますが、不言会の活動は旧制成蹊高等学校へと引き継がれます。スポーツに汗を流し、芸術や文学同好の士が集う不言会の活動を通じ、生徒たちは力を合わせることで、真剣に取り組み精神を培いながら、友情を深めていきました。

(写真)
旧制成蹊高等学校理科第一回卒業記念アルバムより 美術音楽部 (左端は大沼林右衛門)



成蹊学園広報

2011年6月24日 発行
学校法人 成蹊学園総務部広報課
東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話 (0422) 37-3517
URL <http://www.seikei.ac.jp> e-mail koho@jim.seikei.ac.jp

東日本大震災の影響により、4月1日に発行を予定しておりました『成蹊学園広報81号』は、82号との合併号として発行いたしました。

東日本大震災に際して

成蹊学園理事長 佃 和夫

このたびの東日本大震災により尊い命を失われた多くの方々に深い哀悼の思いを捧げるとともに、被災されました方々に心よりお見舞いを申し上げます。

この震災により、本学園においても学事および行事を一部変更するといった影響がございました。しかしながら、施設・設備等の損害は軽微なものであり、新年度からの教育研究活動に大

な支障をきたすものではございませんので、在校生および学園関係者の皆さまは、どうぞご安心ください。

また、本学の義援金募金活動に対しましては皆さまから数多くの心温まるお見舞いとお志を頂戴致しました。多大なるご協力を賜りましたこと誠にありがとうございます。改めて厚く御礼申し上げます。お寄せいただいたご厚志につきましては、日本赤十字社を通じて被災地に送らせていただきます。

末筆となりましたが、皆さま方の安全と、被災地の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

学園創立100周年に向けて —現状と課題—

成蹊学園 専務理事

加藤 節

Takashi Kato



このたびの東日本大震災で被災された方々に心からのお見舞いを申し上げますとともに、深甚の被害を受けられた地域の一日も早い復興をお祈りいたします。

日本が直面する現在の厳しい状況のなか、成蹊学園は来年に迫った創立一〇〇周年に向けて遅滞なく進んで行かなければなりません。関係者の皆さまに二層の御支援をいただくために、学園の現状と課題とをご報告させていただきます。

学園は、この数年にわたり、創立一〇〇周年記念事業「新・成蹊創造プラン」に基づくさまざまな改革事業を推進してまいりました。この改革事業は、学園全体の教育理念である「個性を持った自立的な人間の創造」を各学校がどのように実現するかを念頭においたものであり、これまで学園横断的な組織である国際教育センター開設を皮切りに、小学校における二十八

新 人生の皆さん、ご父母の皆さま、ご入学おめでとうございます。大学を代表し、皆さま方に心より歓迎の意を表させていただきます。

また、今回の大震災とそれにともなって発生しているさまざまな影響による被害に遭われた方々には、心よりお見舞い申し上げます。

今年度は、経済、理工、文、法の四つの学部および経済経営、理工学、文学、法学政治学、そして法務の五つの研究科をあわせた大学・大学院全体で二〇七五名の入学者の方をお迎えしています。本来であれば、これから入学者の皆さん全員とその保護者の方々が一堂に会した入学式を開催し、ご入学を祝福すべきでありましたが、今年度の入学式は大学全体ではなく各学部別とさせていただきます。また三月十九日に開催予定であった二〇一〇年度の学位授与式は中止とせざるをえませんでした。大学としても誠に残念ではありますが、いづれも余震のリスクや電力消費抑制といった諸事情への配慮に基づくやむを得ない措置でありますので、どうかご理解いただきたいと思います。

現在の試練と大学の使命

現在、われわれは大きな試練に直面しています。戦いは長く厳しいものとなるでしょう。人生の新たな門出である入学を迎え祝福されるべき方々にとってはきわめて残念な事態ではありますが、大学といたしましては、被災された新入生や在校生の方々にできるだけの支援をさせていただきますので、学生の皆さんは、どうか成蹊で学ぶ知恵と成蹊で出会う多くの人々とのつながりを生かして、それぞれの人生をたくましく切り開き、そして皆さんの若くエネルギーなパワーでこの日本

人学級制の実現、中高一貫性の強化、大学情報図書館・中高ホームルーム棟・小学校本館の新設など、それぞれの世代が個性を発見し、陶冶し、自らが進むべき道を自立的に選択する力をも身につける機会を提供してきました。

また、豊かな教養と学生一人ひとりの個性とを結びつけることを意図して大学において開始された成蹊教養カリキュラムも二年目を迎えました。カリキュラムの一部である「桃李成蹊科目」には、成蹊で学ぶ学生としてのアイデンティティを確立する一助となるよう、成蹊の歴史や教育に関する内容も盛り込まれております。

このように、学園は、創立者中村春二先生の精神に汲んで「個性を持った自立的な人間」を創造しようとする一貫した教育理念の下、一歩一歩着実な改革を実現してまいりました。しかし、「新・成蹊創造プラン」の実現計画が最終段階に入った現在、学園は新たに三つの課題に直面しています。第一の課題は、一連の改革事業でやや体力の弱った学園財政の立て直しを図ることです。学園の財政状況は健全に推移してはおりますが、一連の改革事業を経て、今後大学六号館をはじめとする学園施設の新築工事やいくつかの大規模な耐震工事といった事業に直ちに着手するよう余裕が失われてきていることも事実です。そのため、学園財政の強化を図りながら、将来に備えた基金積立計画の策定と実施の着手を進めています。

また、第二の課題は、二〇一二年に迎える学園創立一〇〇周年を、長い歴史の中で培われてきた成蹊学園の力を内外に向けて発信するともに、学園が目指しているものを宣言する絶好の機会にしなければならぬということです。皆さまのご尽力により、「新・成蹊創造プラン」は順調に推移し、次の百年に向け、大きな一歩を踏み出すことができたのではないかと感じております

の社会の復興にぜひとも貢献していただきたいと思ひます。

目下、私たちが直面している試練は、社会的、経済的な面での計り知れない影響という意味においても、また学園の原点に深くかわるという意味においても、大学にとってきわめて切実であります。なぜなら、大震災とそれとともに引き起こされた深刻な事態によって、今まさに人類が築き上げてきた科学への信頼のみならず、およそ人間の英知それ自体のあり方と力量が問われているからです。これまでの歴史の中で、今回のような大きな災害や、あるいは戦争といった悲惨な出来事を経験するたびに、人間の知恵と意志とが繰り返し問われ、学問や思想の再生が試みられてきました。この困難な試みを忍耐強く継続し、例えほんの一步でも前に進む努力が再び求められているのです。大学の使命はこの求めに応えることにあり、大学の教員は一人ひとりそれぞれの思いを込めて新学期の授業に臨んでいます。その意味では、困難ではあっても、今の時こそ学問に本気で取り組む絶好の機会に他ならないといえるでしょう。ですから、学生の皆さんにぜひともお願いしたいことがあります。それは、今のこのような状況で勉学に専念できるという恵まれた機会を大切にしてください。皆さんが大学で学ばれる知識や経験が日本の社会あるいは世界にどのような貢献をなしているのかを真剣に考え、自分自身の答えを見つけて欲しいということです。これが、学生の皆さんに卒業までにぜひしていただきたい私からの課題です。

成蹊の原点を踏まえて新たな出発へ

成蹊学園は来年創立一〇〇周年を迎えま

が、また同時に、学園が一丸となり、創立一〇〇周年に対する機運をさらに高め、新たな一歩をしようしていかなくてはならないと考えております。現在、学園では創立一〇〇周年記念行事のコンセプトを「心の力」を、未来へ。「サブコンセプトを『教養ある豊かな人間性』で、時代をひらく。」として、記念式典の準備をはじめ、卒業生や在学生の行事企画を推進しております。二〇一二年五月十二日（土）には、「東京国際フォーラム」を会場として、「創立一〇〇周年記念式典」を開催することが決定いたしております。記念式典をはじめとする各種行事には、この節目を皆さまと共に有するために、積極的にご参加いただける企画を検討中です。決定次第、順次、学園広報やホームページにてお知らせしていきますので、何卒ご協力の程、お願い申し上げます。

この第二の課題とも関連して、我々には第三の課題が課せられております。それは、成蹊学園の未来像を改めて構想する作業に着手することにも他なりません。先にも少しふれましたように、この数年間にわたって推進されてきた「新・成蹊創造プラン」は、「成蹊学園二十一世紀構想検討委員会」の答申「二十一世紀における成蹊学園の新たな創造に向けて」（二〇〇〇年七月）でなされた各種の提案を具体化するものでした。しかし、それは、学園改革のために同答申でなされたすべての提案を実現したのではなく、まだまだ手つかずに残されている問題も少なくありません。その意味で、私どもは、前述の答申のうちで何が達成され、何が残されているかを改めて検討し直した上で、次の百年に備える作業を開始するため、本年一月に成蹊学園将来構想検討委員会を立ち上げ、検討を開始しております。学園のそうした姿勢に対する皆さまのご理解とご支援とを切にお願いして、私からのご報告いたします。

す。その創立時の一九一二年三月末に開校式を直前に控えた成蹊実務学校の新校舎は、近隣からの延焼により一瞬にして全焼してしまいました。しかし、創立者中村春二先生らの不屈の意志と努力によって、わずか一週間で仮校舎を建ち上げ無事に開校式を迎えることができたのです。成蹊学園は、このような試練からスタートして百年の年月を刻み今日に至っています。学生の皆さんには、このような歴史と伝統を持つ学校の一員としての誇りをもつて、高邁な理想と冷静な判断力を培い、今回の難局を乗り切り、明るい未来を築いていくことを強く望みます。大学としても、皆さんの今後の活躍を大いに期待する次第です。

大学は、教育・研究活動を通じて、今日の状況にこたえるべく知の再生を試み大学としての本来の使命を果たすことはもちろんですが、さらに地域や社会の活性化にも貢献していくことが今こそ求められています。今年度は、昨年好評を博した「むさしの」をテーマとした公開講座が引き続き開催される予定です。また、大学祭の櫛祭が五〇回目を迎えるため特別企画が学生諸君によって目下検討されているとのことですし、四大学運動競技大会も本学で開催されます。さらに、大学の研究機関であるアジア太平洋研究センターも創設三〇周年を迎えるため記念シンポジウムが行われます。したがって、今年度成蹊では文化、スポーツ、研究などさまざまな分野で昨年以上に熱気に満ちた活動が展開されることとなります。その意味で、今年はいよいよ来年に迫ってきた成蹊学園創立一〇〇周年のまさに前夜祭にふさわしい盛り上がりを見せることになるでしょう。成蹊のパワーで日本の社会が元氣を取り戻すことに少しでも寄与できればと願っておりますので、ご父母の方や卒業生の方もぜひご参加ください。

学長・校長あいさつ

試練の中での新たな出発 —新年度の挨拶に代えて—

成蹊大学長

亀嶋 庸一

Yoichi Kamejima





未来へつなぐ「心の力」

成蹊小学校長

金納 善明

Yoshiaki Kinno

それは、一年生の子どもでも同じなのです。苦勞して我が家に戻った安心感を無邪気に表現するだけではなく、名も知らぬ方々との交流を冷静に振り返る子どもたちの姿。これこそが「心の力」なのだと感じました。

一人ひとりの日記を読んで、子どもたちは、（家に辿りつけるのだろうか）という恐怖を乗り越え

れていたことに驚きました。

幼い娘の心に春二先生の教えの基本が素直に吸収され受け止められ、また娘自身、春二先生が喜ぶような自分でありたいと思っている様子に安心感のようなものを感じました。：

もちろん、一人ひとりの日記には、（もしかしたら我が家に辿り着けないかもしれない）という不安や恐怖が表れていました。しかし、それと同時に周囲の支援に対する感謝の心がしっかりと綴られていたことに驚きました。

静かに並べるよ」

家族が迎えに来るまで付き添ってくれた方、線路を一緒に歩いてくれた方、幾たびも携帯電話を貸してくれた方など、駅員さんやお巡りさんばかりでなく、同乗していた見知らぬ方々が、小さな子どもたちを案じて心を寄せてくださっていたことを、子どもたちが丁寧に振り返って書いていました。

娘「ママ、成蹊をつくった人、誰だか知ってる？」
母「知ってるわよ、中村春二先生でしょ？」
娘「そう！春二先生は、静かに並べない子は、心が臆病な子だって言っただんたてき」
母「そう：あなたは臆病な子？」
娘「ちがうよ！ちがうよ！わたしは臆病じゃないよ。静かに並べるよ」

日記には、有り難いことにこうした子どもたちに多くの援助の手が差し伸べられたことが綴られていました。

：就寝時、どこに入った娘が、

成蹊小学校では、四月になってから、担任が発行する学級通信で、三月十一日をめぐる子どもたちのさまざまな日記を読むことができました。

これに関わるエピソードがあります。
成蹊小学校では、五月半ばの運動会に向けて二週間の練習期間を持ちます。昨年度の一年担任は、学級通信に保護者からの子どもたちの生活に関わる手紙を掲載していました。私が心惹かれたのは次のような手紙でした。

「二月の東日本大震災以来、皆さまにお障りがなければとひたすらご無事を念じておりました。心よりお見舞い申し上げます。

る「心の力」を、穏やかなときの「人と人とのつながりとふれあい」の中で、しっかりと育んでいたのだと痛感したのです。

昨年、学校関係の情報誌に高校の馬術部の記事があり、スポーツライターの青島健太氏（元ヤクルトスワローズ）が「応援！学校の感動印」という項で四ページにわたって取り上げていました。一部を紹介します。

馬術部では、馬という生き物の下、部員たちが集まってくる。彼らはその馬に乗って新たな道を切り開いていく。馬とコミュニケーションし、仲間を信頼し、それぞれの個性を生かす自分の道を見つけていく。馬は馬であると同時に、それは自分自身であり、周りの人たちであり、取り組むべき大きなチームなのだ。そして彼らはそうしたことと真っ向から向き合っている。だから馬と向き合うことで得る自信が、そのまま自分を動かす自信になって



成蹊中学・高等学校長

両角 雄功

Yuko Morozumi

成蹊の「宇」

この度の大震災において被害を受けられた方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。また、被災地にお住まいの卒業生をはじめとする、学園関係者の皆さまのご無事を祈っております。中学・高等学校におきましては生徒、教職員に人的被害もなく、建物、施設の被害も軽微なものを除いてありませんでした。ただし、終業式、保護者会等は中止にし、生徒の安全を確保することを目的として春休みは入構を制限いたしました。四月に入り、新年度は予定通りに始まっております。

馬術部の部員と話をしていると、なんだからとても軽快で気持ちがいい。なぜなのか？日頃から、常に馬の反応を見ながら、的確に自分の意思を馬に伝えているからだろうか。曖昧なことは、許されない。感じたこと、分かったこと、相手から受け取った情報にすぐに答えを出して呼応する。それは、人と人とのコミュニケーションでも同じだ。厩舎や馬場の彼らは、馬の態度や反応を感じることを最優先にしながらも、それと同時に進行で人間同士のコミュニケーションにも気を配る。常に何本ものアンテナを張りながら活動している。私が感じた心地よさは、おそらく、その態度の高さからくるもののだろう。

折しもこの記事を読み返していた日の朝は、雪が積もっており、私が登校すると、中央館の階段を毎日掃除してくださっている清掃会社の女性が雪かきをしていました。私もすぐに荷物を置き、作業に加わりました。しばらくすると、登校してきた男子高校生が「僕にも手伝わせてください！」と、快く参加してくれたのを筆頭に、中学三年生の女子、教員、と雪かきの輪は次々に広がっていききました。

成蹊に蹊あり。

さて、成蹊学園は来年、創立一〇〇周年を迎えます。成蹊中学・高等学校も、中村春二先生の建学の理念を未来に生かすため、「グローバルに認知される教養と個性の育成」、「協調性のある自立精神と自律的行動力の育成」、「知的好奇心と科学的探究心の育成」を教育のビジョンとして掲げております。また、学校案内には「成蹊は、人を創る」、そして「学びが人を育てる」、「環境が人を育てる」、「伝統が人を育てる」とあります。

桃李不言下自成蹊」
桃や李（スモモ）の木は何も言わないけれど、そのすばらしい果実の下に人が集まり道ができる。ここに成蹊の名の由来もある。

三月十一日を境にして、日本という国家も、私たちの生活や生き方も大きく変わると考えられます。このようなときだからこそ、「和」と「輪」を大切に、教職員一同力をあわせて未来を担う豊かな人間性と正しい判断力を持った生徒を育成すべく、情熱を持って指導していく所存です。

卒業生の皆さま、在校生保護者の皆さまのこれまでに増すご教示とご支援を、切にお願ひ申し上げます。

東日本大震災に関する 学園からのご報告

三月十一日に発生した東日本大震災により被害を受けられた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

この度の大震災に際し、本学園では幸いにも建物の倒壊や人的被害もなく、各学校において新年度の行事・授業が行われております。本学園における被害状況および三月十一日の地震発生日から新年度にかけての諸対応を、報告いたします。

避難施設としての利用状況

三月十一日から翌十二日にかけて、帰宅困難となった児童、生徒、学生、教職員がそれぞれのエリアごとに定められた避難施設に宿泊をしたほか、一般の方についても、教室などを開放し受け入れました。この間キャンパス内における怪我人は一人もなく、十二日正午までには、すべての児童、生徒、学生および一般の帰宅困難者が帰路につきました。

学校名	開放施設	受け入れ(宿泊)人数
成蹊大学	5号館 101室	一般帰宅困難者 約70名
	4号館	学生 約300名
	3号館 101室	学生 約10名
	3号館 102室	学生 約50名
	理工学部研究室	学生 約80名
	本館大講堂	学生 約10名
成蹊中学・高等学校	西1号館	学生 5名
	成蹊中学・高等学校	生徒 437名
成蹊小学校		児童 47名

*上記のほかに教職員132名が構内に宿泊

児童・生徒・学生および 教職員の安否状況

小学校児童、中高生徒については、全員の安全が確認できております。大学においては、災害救助法適用地域に保証人の住所がある二〇一一年度在学学生・全二百七十三名、新入生・全八十九名の安全が確認できております。教職員についても人的被害はありませんでした。

各施設について

児童、生徒、学生が利用する校舎など主要施設については、専門家が点検を行い構造上の安全性を確認しました。また、ガラスの破損、クラック（ひび割れ）の状況などをリストアップし、危険箇所にも立ち入らないように措置を講じるとともに、新年度に向けて教育研究活動に支障が生じないよう、修繕等の手配を行いました。現時点（六月八日）において、被災地救援優先の体制に伴い、修繕が完了できていない箇所も残っておりますが、教育研究活動に支障が生じる状況とはなっておりません。その他の学外施設といたしまして、学園箱根寮、戸田艇庫、八景島のヨット部部室・艇庫（借用物件）についても、安全確認ができております。

学事および行事について

不安定な交通事情や計画停電の実施という社会情勢、余震に伴う児童、生徒、学生等の安全確保の観点から、小学校、中学校の卒業式および大学の学位授与式は中止、各校は年度末まで休校とし、教職員および業務関係者以外の者の入構制限を実施いたしました。

その後わずかながら状況が好転したことにより、小学校は三月二十二日および二十九日、中学校は二十四日、大学は二十三日に卒業証書・学位記を授与する場を設けましたが、その一方で、小学生のオーストラリアへの派遣学習、大学生のケンブリッジ大学への短期留学、そして四月三日に予定されていた成蹊桜祭など各種行事は中止といたしました。なお、法科大学院については、司法試験を五月に控えること、および校舎がキャンパス外にあることから、学生に学習の場を提供する体制を維持することとし、入構制限を実施せず、学事日程についても出来る限り当初の予定通りに行うことといたしました。

その後、学園において計画停電が実施されない状況、および公共交通機関の運行状況の改善に鑑み、三月二十日以降は正門で入構目的を確認の上、九時から十七時の時間帯に限り、短時間の入構を許可、三月二十八日からは九時から十七時までの間（中学・高等学校は八時から十六時までの間）について、入構を許可することといたしました。

新年度における学事日程について、大学は、入学式を四月四日から十一日に変更し、学部ごとに短時間で行う方法に改めました。また、その他の学事日程については、被災学生の状況や、就学環境の確保などを考慮し、一週間遅らせることを決定しました。中学・高等学校は、当初の計画通り、四月七日の入学式から新年度を開始しました。小学校は、年度末に行うことができなかった離任式と教室移動を行う「新学期準備の日」を四月五日に設け、入学式と始業式をそれぞれ一日遅れの六日に行いましたが、授業は当初予定通りの七日に開始しました。このように、四月四日以降は、入構制限を解除し、平常通りの体制にもどりました。

大学在学学生および新入生に対する 経済支援

在学生

●納付金の減免

被災学生に対する経済的支援として、災害救助法適用地域にとどまらず、被災者に対する授業料等の免除および減免を行うことといたしました。提出書類をもとに審査し、減免対象となった場合には、次のような特別措置を講ずることといたしました。

①家屋の災害の状況および学費負担者の被害の状況に応じて、二〇一一年度の前期納付金（授業料、施設費、設備費）の全額又は二分の一を減免

※二〇一一年度後期納付金につきましては、通常の延納を認めた上で、個別の状況に応じて配慮することといたしました。

②被災により、修学が困難となった方で、一年間又は半年間の休学を希望される場合は願出により、休学に係る在籍料（十五万円。半年の場合は七万五千元）の納入を免除

新入生

●入学金・納付金の減免

在学生と同様に被災学生に対する経済的支援として、提出書類をもとに審査し、減免対象となった場合には、次のような特別措置を講ずることといたしました。

①入学金の返還
②家屋の災害の状況および学費負担者の被害の状況に応じて、二〇一一年度の前期納付金（授業料、施設費、設備費）の全額又は二分の一を減免

※二〇一一年度後期納付金は、通常の延納を認めた上で、個別の状況に応じて配慮することといたしました。

③被災により、入学直後からの修学が困難となった方で、一年間の休学を希望される場合は願出により、休学に係る在籍料（十五万円）の納入を免除

●入学延期制度

二〇一一年度に本学の学部・大学院に入学を予定されている方で、その学費負担者が、東日本大震災の災害救助法適用地域に居住し、被災により入学直後からの修学が困難となったことに伴い、入学延期を希望する場合、申請者に対し二〇一二年度入学を許可することといたしました。

また、本学の各種奨学金及び日本学生支援機構の緊急採用・応急採用奨学金に申請することが出来ます。詳細は学生生活課にお問い合わせください。

被災した本学学生への支援奨学金と 震災義援金について

成蹊学園では、震災復興への支援活動として、被災した本学学生への支援奨学金と震災義援金へのご協力をお願いしております。

■ 東日本大震災被災学生支援奨学金

創立100周年記念事業募金において、被災した学生を支援する奨学金（給付）へのご寄付を募っております。

【申込方法】

(1) 銀行または郵便局からのお振込み

「募金趣意書」に同封の「寄付申込書」を本学宛にお送りいただき、所定の「振込用紙」にてお振込みください。

(2) パソコン・携帯電話からのクレジット決済

成蹊学園トップページ<http://www.seikei.ac.jp/>を開き、画面右上にある「100周年記念事業」よりお手続きください。

※詳細は「募金趣意書」またはホームページをご覧ください。
お手元に書類のない方は募金局までお問い合わせください。

お問い合わせ先

成蹊学園創立100周年記念事業募金局
TEL: 0422 (37) 3941

■ 学校法人成蹊学園 東北地方太平洋沖地震義援金

寄せられましたご厚志につきましては、日本赤十字社を通じて、被災地に送らせていただきます。

【申込方法】

(1) 義援金受付箱

本館2階総務部総務課に設置しております。

(2) 銀行からのお振込み

（恐縮ながら、振込手数料はご負担願います。）

- 三菱東京UFJ銀行 吉祥寺支店
- 普通 1714825
- 口座名 学校法人成蹊学園
東北地方太平洋沖地震義援金
ガッコウホウジンセイケイガクエン
トウホクチホウタイヘイヨウオキジシンギエンキン

※詳細はホームページをご覧ください。

お問い合わせ先

成蹊学園総務部総務課
TEL: 0422 (37) 3503



準硬式野球部で主将を務め 二部昇格で有終の美を飾る

— 成蹊大学に入学されたきっかけから
教えてください。

高井 受験前に、高校の同級生から成蹊大学を見学に行こうと誘われました。今でいうオープンキャンパスの走りですね。緑豊かなキャンパス、広いグラウンドで、学生たちが楽しそうに過ごしている様子を見て、一目で気に入りました。こうして恵まれた環境で学びたいと考えて、受験を決めました。

インタビュー 桃李の人々 vol.29 卒業生ロングインタビュー

私は早くから自立心が旺盛で、完全に親離れしていました。ですから、どの大学を受験するか、まったく両親に相談もしませんでした。成蹊大学に入学するこ

株式会社 紀伊國屋書店代表取締役社長

高井 昌史

Masashi Takai

高井昌史さんは、国内 65 店、海外 24 店で大型書店を経営し、全国各地での営業活動・出版・演劇事業も行う紀伊國屋書店の代表取締役社長。成蹊大学時代は、準硬式野球部の主将として活躍し、同部の OB 会会長、および成蹊出身の出版人の集まりである出版桃李会の会長格も務められています。大学時代の思い出と、後輩たちへのメッセージを語っていただきました。

経済界、出版界で

一大人脈を築く成蹊OB

卒業後も交流が続いています

となったと告げたところ、両親は私が予想していた以上に「いい大学に決まってよかった」と大喜びしてくれました。それまでにいろいろと心配をかけることが多かったので、親孝行になったかなと、うれしく感じました。というのも、高校では、野球をやりたくて、いったん野球の強豪校に入学したものの、四か月でやめてしまったのです。百名位の部員がいる高校で、あまりの実力の違いに、とてもついていけないと思ったからです。進学クラスに所属していたため、勉強ががんばろうとも考えたのですが、そのクラスは秀才揃いで気後れしてしまいました。もう少しゆとりのある高校生活がしたいという気持ちが生まれ、他の高校に転入しました。その時も、両親の反対を押し切って、自分の意志を通したので、成蹊大学入学を喜ぶ両親を見て、少しは恩返しできたかなと感じたわけです。

— 大学入学後、準硬式野球部に入部されたのですか。

高井 転校した高校でも野球を続けたかったのですが、転校生は一年間公式戦

に出場できないという規則があり、それではやりがいを感じられず、結局、地元の草野球チームでプレーしたりしていました。そこで、大学では本格的に野球に取り組みたいと思い、入学手続時の提出書類で入りたいクラブの欄に野球部と記入しました。すると、入学前の三月中旬に、準硬式野球部の先輩学生から電話連絡があったのです。練習を見学に行くと、すでに私のユニホームが用意されています。バッティング練習もさせてもらい、「なかなかいいセンスをしているね」とおだてられて、食事もお馳走になって、そうなるとう入部するのが当然といった雰囲気になっていました（笑）。

— 準硬式野球部の戦績はいかがだったのですか。

高井 甲子園経験者もいましたから、かなりレベルは高かったですね。けれども、私が入学する直前の東都大学リーグで、三部に降格しており、雪辱を期して二部に昇格することが至上命題になっていた時期でした。ところが、それがなかなか簡単なことではありませんでした。専門の監

中の人がとても多いことです。卒業順で大日精化工業前常務の山本圭介さん、初代OB会長のディーエムエス副会長を務めた故山本良介さん兄弟、伊勢丹副社長等歴任後福岡岩田屋社長で活躍された佐久間美成さん、新興ブランテック前会長の新庄信さん、東京貿易の漆崎久司専務、森永乳業の古川紘一社長、浜松信用金庫の御室健一郎理事長、第一交通産業の大塚泉副社長など、枚挙にいとまがありません。

— 経済界で活躍するOBが多いのは、何か理由があるのでしょうか。

高井 文武両道で、学業と部活動を両立させたいという意識を持った部員が多かった気がします。また、野球はチームスポーツですから、団結心や、チームの役に立とうとする気持ちなど、組織で働く上で生きる力が自然と身についていることが大きいのでしょう。

準硬式野球部OBは、後輩部員の就職を支援するのが伝統になっており、私もOB会長として、毎年、部員対象の就職相談のために大学を訪れています。

新進気鋭の教授陣のもと 刺激的な授業に感動

— 大学時代、印象に残っている授業はありますか。

高井 中村草田男先生が印象的でした。高名な文学者の講義が受けられることに

感激して、授業をととても楽しみにしていました。それから、私は一九六六年に政治経済学部に入学したのですが、二年後の一九六八年に経済学部と法学部に改組されるのが決定しており、新進気鋭の教授が数多く採用されていた時期でもあったのです。そのため、どの授業も活気にあふれており、刺激的でしたから、真面目に出席していました。

— ゼミではどのようなことを学ばれたのですか。

高井 二年次の時、黒沼稔先生の原書講読の授業を受けました。親身になって学生を指導しようという先生で、ゼミの先生のもとで学びたいと考えて、黒沼ゼミに所属しました。黒沼先生には、準硬式野球部の顧問教授もお願いしました。私たちとしては、名目だけの顧問で十分だと思っていたのですが、思いがけず先生は熱心で、祝勝会や残念会などに出席されたり、合宿に差し入れてくださったり……。その後、私は仲人もお願いするなど、公私ともに本当にお世話になっていきます。

また、黒沼先生は遊ぶ時は学生と一緒に精いっぱい楽しむ一方で、学業とのけじめも大切にされる方で、ゼミの学びにも真摯に取り組むように指導されていました。私がゼミで研究テーマに選んだのは、当時、大きな課題になっていた「過疎問題」です。三年次に東京都の檜原村、四年次には島根県の匹見町（現・益田市）に十日間ほど実態調査に出かけ、卒

経済界の第一線で 活躍中のOBを数多く輩出

— 主将として苦勞されたことはありますか。

高井 最近の成蹊大学の学生はおとなしい印象がありますが、当時は自我の強い学生が多く、まとめていくのは大変でした。その結果、統率力、リーダーシップが身についたことが現在役立っており、いい勉強をさせてもらったと思っています。

— 準硬式野球部のOB会長も務めておられますか。

高井 現在、約三百五十名の会員がいます。強調しておきたいのは、準硬式野球部のOBには、経済界の第一線で活躍

論にまとめました。役場の職員にインタビューしたり、節約するためにお寺に泊めてもらったり、なつかしい思い出です。

朝倉孝吉先生の教えを受け 成蹊の魅力を再認識

— そのほか、影響を受けた先生はいらっしゃいますか。

高井 朝倉孝吉先生の教えに感銘を受けました。著名な経済学者であるとともに、中村春二研究の第一人者でもある先生の著書『蹊その一』を読んで、成蹊の魅力が再認識し、ますます成蹊のことが好きになったのです。『蹊その一』は、一九八一年までの朝倉先生の自伝をまとめたものです。その後の先生の論文や講演録を収録した本を出してほしいと申し上げたところ、「それなら、君が編集してくれ」と言われました。それまで営業畑一筋で、編集の経験はなかったのですが、一念発起して、足かけ三年ほど先生のご自宅に通い、二〇〇〇年に『蹊その二』が完成しました。大学の図書館にも寄贈してありますから、学生たちにもぜひ



成蹊の“学び”を レポート 教育のいま No. 16



「人間工学」とは、人間を取り囲むすべてのもの、例えば、道具、機械、システム、環境、などの使いやすさを追求する技術分野である。この分野の勉強を始めてから三十数年、講義をもつてから二十年が経過した。この間、さまざまな作業現場を訪れ、問題解決のための調査や実験を行ってきた。そこで出会った人から受けた感動がこれまで私を支えてきてくれたように思う。

ベルトコンベヤー上を高速で移動するビール瓶の欠陥を極めて効率的な目の動かし方で見つける検査員（ただし、長時間はきついで十五

人間の素晴らしさに感動

出会った人から受けた感動が、 人間工学を追求する原動力に

大学・
理工学



人間工学

おおくら もとひろ

大倉 元宏

成蹊大学理工学部 教授

早稲田大学大学院理工学研究科前期課程修了、成蹊大学助手、専任講師、助教授を経て、1997年より教授。専門は人間工学。視覚障害の歩行特性、移動支援設備、コミュニケーション支援機器の研究開発に従事。



高井 昌史（たかい・まさし）

1947年、東京都生まれ。成蹊大学政治経済学部に入学生、学部改組により、1970年、法学部政治学科第1回生として卒業。1971年、株式会社紀伊國屋書店に入社。1975年宇都宮営業所長、1982年府中営業所長、1985年営業第一本部北陸営業部長兼金沢営業所長、1987年情報製作部長、1993年取締役、1999年常務取締役、2004年専務取締役、2006年副社長を経て、2008年に社長に就任。



ひ読んでほしいですね。

また、成蹊学園のOBである上田祥士さんの『大正自由教育の旗手、実践の中村春二・思想の三浦修吾』にも影響を受けました。こちらも成蹊関係者にとって必読の書です。

卒業後も続く温かい交流が 成蹊ならではの特色

——成蹊大学で学べたことが、その後の活動に生きていると感じられることはありますか。

高井 実は、成蹊OBは出版界にも一大人脈を築いています。出版界で活躍するOBの交流会である「出版桃李会」には約百名が名を連ねています。日本書籍出版協会理事長で小学館の相賀昌宏社長、日本医書出版協会代表理事で医学書院の金原優社長はともに日本の出版会のリーダーです。そして集英社の堀内丸恵専務、同期で学生時代から友人の石田耕二専務、あかね書房の岡本雅晴社長、同文館出版の中島治久社長、MPDの吉川英作社長など、錚々たるメンバーです。

社会に出てからも、こうした交流が続くのが、成蹊ならではの魅力です。他大学の出身者からはとてもうらやましい話だと言われています。

地方出身者や留学生の 積極的な受け入れを望む

——今後の成蹊大学に期待されることはありますか。

高井 私が在学していた頃は、現在よりも地方出身の学生の割合が多かったように思います。多様な考え方に接するなかで、刺激を受け、視野が広がっていききました。ですから、今後はもっと地方の学生を増やす努力をしてほしいですね。地方在住の有力OBもたくさんいますから、そうした方々にアドバイザリースタッフに就任してもらい、成蹊の良さをアピールする広報活動を支援していただくのもいい方法だと思います。

それから、今後の若者たちには、世界を舞台に活躍することが求められます。そのためには、英語はもちろん、中国語、韓国語など、複数の語学力を磨くとともに、外国人に対して臆することなく対等にコミュニケーションを図れる姿勢が不可欠になります。ですから、学生をどんどん海外に長期派遣するとともに、外国人留学生の受け入れにも、さらに積極的になってほしいと思います。

——そのために必要なことは何でしょうか。

高井 環境の整備でしょう。国際交流会館だけで満足せず、地方出身者や外国人留学生を受け入れるための学生寮を作るのも一つの方法です。いずれにしても、これからの大学は国際的な競争にさらされることは間違いありません。国際的に評価される大学として生き残っていくために、具体的な数値目標を設定して、中長期的な取り組みが進められることを期待しています。

——最後に、成蹊大学の後輩たちに向けてメッセージをお願いします。

高井 十八歳といえば、そろそろ親離れをしなければならぬ時期です。まずは「自立心」を養ってほしいですね。それから「我慢、忍耐、辛抱」……同じような言葉ですが、少しずつ意味合いは違います。もう一つは「正直」であること。この三つが備わっていれば、社会の荒波を生き抜いていくことができます。成蹊大学には、素晴らしい先生方の授業、部活動で苦楽を共にする友人たちなど、多様な出会いがあります。それを大切にして、三つの力を養ってほしいと願っています。

※このインタビューは一月二十日に行いました。
（広報課）

このたびの東日本大震災で被災された皆さま、並びに関係者の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

高井昌史



二次課題法による歩行中の余裕能力の測定



三次元運動計測システムによる歩行軌跡の測定

感動のなかみを解明する

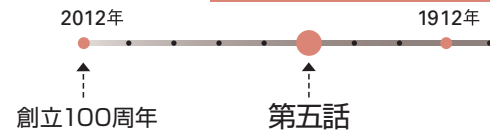
その感動や衝撃を学生に伝えたいと思い、いろいろな現場に学生を同行してきた。ただし、感動してばかりでは仕事は進まない。その感動のなかみを科学的な手法で解明しなければならぬ。学生と一緒に、いろいろな装置を持ち込み、計測、解析する。そう簡単にはいかないが、いくつかわかってきたこともある。単独行動経

分程度で交代）、自動車の組立工場で前進二段変速のフォークリフトを巧みに操り、高速で部品を運搬する運転手、二次元のレーダ画面と音声による交信から三次元で複数の航空機の位置を頭に描く航空管制官、速度の信号制御を先読みして滑らかな加減速を行う新幹線の運転士等々、どれも感動の連続であった。

とりわけ、視覚障がい者から受けた感動は特別なものであった。なぜなら、人間工学では、人が行動面で利用する情報のほとんどは視覚から取りこまれると教えてきたからである。その通説が根底から崩されたわけで、衝撃すら覚えた。会議等の録音テープを繰り返し聴き、カナタイプライターを使って文字におこす録音タイプ速記では、一定のタイムラグをもった聴き取りと打鍵の同時進行に目を見張った。歩行中、反響音の変化を察知して、直接触らなくても鋭敏に障害物の存在に気づくことには驚かされた。音が鳴るとはいえ、三次元で動くボールを扱うブラインドテニスや同サッカーにおけるラリーやダイレクトシュートは人間技とは思えなかった。ある機能が失われても、それを別の機能で補う、人間の補償能力の何と素晴らしいことか。

験の長い視覚障がい者に歩行をしながら、もう一つ別の仕事を行ってもらい、別の仕事の成績から歩行中の余裕の程度を測ってみた。行動経験の長さからみて常に余裕を持って歩いていると予想していたが、進路を誤り、再度、目的の方向をみつけないとしたり、道路を横断したりする際には、別の仕事の成績が低下していた。慣れていたも、場合によってはその人の全能力を動員しなければ対応できないのである。視覚情報得られない歩行では、まっすぐ歩くという実際の歩行軌跡は左右どちらかに曲がるという偏軌傾向が知られている。この偏軌の機序については未だ確定的な説明はないが、われわれの実験では、場における音の影響が示唆されている。例えば、目標に向かってまっすぐ歩くとして、側方から騒音が出されると、騒音とは逆の方向に偏軌することが観察されている。

感動のなかみの解明はたやすくはないが、これからも大勢の人に出会い、その素晴らしさに感動し、その感動を学生と分かち合いたいと思っている。

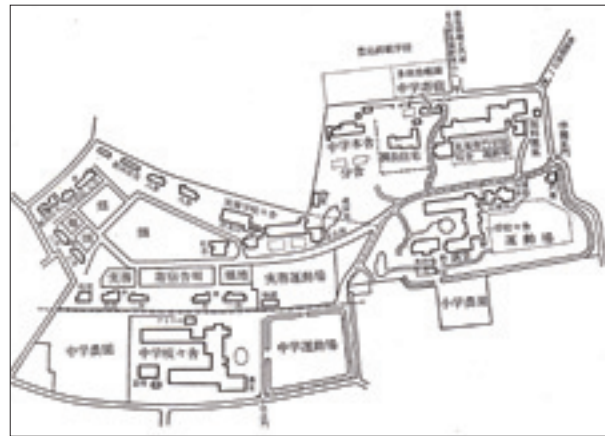


吉祥寺への移転

岐路に立った成蹊学園の選択

一九一九（大正八）年二月、従来の実業教育を目的とする財団法人成蹊学園を改組して、初等教育、高等普通教育および専門教育を目的とする財団法人成蹊学園が正式に認可され、発足した。設立者は中村春二、岩崎小弥太、今村繁三、岩崎久弥。理事は中村春二、今村繁三、三好重造、米沢清治。学園長は中村春二である。

これを機に、成蹊女学校を財団法人成蹊



大正8年当時の学園（池袋）の校舎配置

- 学園に編入し、成蹊実務学校は甲種商業学校となった。わずか三人の塾生から始まった成蹊教育は、池袋の約二万坪の校地に四校が立ち並び、目白に女学校を擁するまでになった。それに伴って、小学校の父母を中心に、小学校から中学校、高等学校まで一貫した成蹊教育体制を望む声が高まっていた。
- そうした要望を受けて、一九二二（大正十）年秋の学園理事会は、成蹊学園の教育体系の組織化を検討し、以下の三つの構想を固めた。
- ① 成蹊教育を、小学校に始まり、中学校、高等学校へと続く一貫体制に改めるために、新たに高等学校を開設する。
 - ② 実務学校（甲種商業学校）、実業専門学校の実業教育は、一貫教育体制から分離する。
 - ③ 高等女学校における女子教育もまた、一貫教育体制から分離する。

一貫体制への進展は大いに望ましいことであつたが、当時の学園の財政では、高等普通教育と実業教育の並立は難しく、二者択

と記され、側面には遺詠が刻まれている。

われからとかけし雲衣とけゆけは

さやかなりけり秋のよのつき

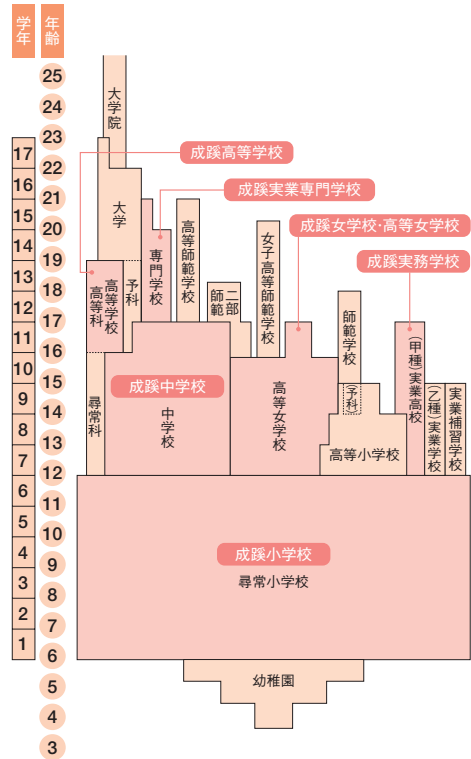
中村春二亡き後、学園長の職制は置かれていない（※2）。

武蔵原野の林「吉祥寺」へ

中村春二という大きな精神的支柱を失いながらも、学園関係者は悲嘆に明け暮れているわけにはいかなかった。同年四月の授業開始を見込んで、三月中に吉祥寺に移転することが決まっていたからである。

新校地の当時の住所は、東京府北多摩郡武蔵野村。後に校歌に謳われるように「土の育む武蔵原野の林」であり、八万余坪の広大な土地であつた。一九二二（大正十二）年から、鉄骨鉄筋コンクリート造三階建、建坪七四七坪の、当時としてはまれに見る近代的で豪壮な新校舎の建築がスタート。敷地内にはこの本館のほか、東側に寄宿舎、食堂、およびトラスコンと呼ばれた体育館があり、アメリカから購入した組み立て式の職員住宅も建設されていた。本館の前面には櫓が並ぶ五日市街道が走り、裏側には五千坪におよぶ緑の芝生の運動競技場が整備された。また、この際、正門から本館玄関に至る櫓並木、東側の櫓並木、敷地周辺のスズカケやユリノキなど、現在も学園を彩る数多くの樹木が植栽された。

また、本館工事が始まると同時に、移転計画の指揮をとった児玉九十学園主事の



設立学校系統図（大正期の学制に照合）

一を迫られた学園理事会は次第に実業教育の廃止へと傾いていった。

一九二二（大正十二）年一月三十日、駿河台の岩崎男爵邸で学園の今後の体制を審議する理事会が開催され、吉祥寺移転を前提として初等教育から高等教育までの一貫教育体制を確立する方針が決定。更にもう一つの重大な議題であつた実務学校と実業専門学校を廃校とする件も可決された。

なお、成蹊高等女学校は、学園が吉祥寺に移転した後も、目白にとどまり、奥田正造校長のもとで運営されることになった。

中村春二学園長の逝去

実務学校と実業専門学校廃校の決断に、最も心を痛めていたのは、中村春二学園長その人であり、苦衷は言葉に尽くしがたいものがあつた。

この時期、中村は健康が優れない日々をおくっていた。一九二三（大正十二）年九月



吉祥寺移転当時の本館。植えられた櫓がまだ細いのが見て取れる。

手により、中村春二宅の霊木一位の木の根元の土が吉祥寺に運ばれ、これは本館中央に位置する大講堂の演壇の真下に埋められた。この土を、池袋の地から始まつた建学の精神を長く留める記念としたのである。

こうした移転作業とともに、学園理事会は高等学校設立の準備を進め、翌一九二五（大正十四）年、イギリスのパブリックスクールに範を取った七年制高等学校が誕生する。

※1 現在は、毎年二月二十一日直前の土曜日に、墓参と追悼会が営まれている。
※2 後に土田校長が「時期学園長と呼ばれていたとされる資料があるが、学園における位置付けは中村のそれとは趣旨が異なるものである。」

● 次回のテーマは「成蹊高等学校の開校」です。（企画・監修 創立一〇〇周年記念行事推進室）



建築中の本館



財団法人の印



療養中の中村春二（後列右から2番目）を見舞う、成蹊女学校の生徒

深い教養と倫理観を備え、
広い視野をもった技術者がこれからの社会を支える

理工学部

二〇〇五年度、工学部を改組し、新たなスタートを切った理工学部。学科横断型の研究が活発化するとともに、学生主導のプロジェクトも誕生するなど、教育・研究体制の強化が進行しています。



科学技術へのニーズの変化に 対応して理工学部を改組

二〇〇五年度、工学部を改組し、物質生命理工学科、情報科学科、エレクトロメカニクス学科の三学科構成の理工学部が誕生しました。その背景を、廣田明彦学部長は次のように語ります。

「二十一世紀を迎えた日本では、工業化社会から知識基盤社会へと変革が急激に進行し、科学技術に対しても、単なる生産性や利便性の追求ではなく、エネルギー、環境、高齢化社会などに関わる、新たな課題の解決に貢献することが求められています。そのニーズに応えるためには、従来の学問的な枠組みの学科構成では限界があり、多様な知識・技術を統合、融合化して問題解決を図る必要があります。そこで、現代社会が大学に求めるニーズ、言い換えれば科学技術系学部の社会的使命に基づく学科体制に改組することにしたわけです」。

理工学部開設と同時に、カリキュラムも大幅に刷新されました。一年次に新設されたのが「フレッシユマンゼミ」。各教員が十名前後の学生を担当し、科



学技術への興味を喚起し、学びの動機づけを図るゼミです（二〇一〇年度からは「基礎演習」と改称し、成蹊教養カリキュラムに移行）。また、科学技術者にとって必要な教養や倫理観を養うための科目も配置されました。

「幅広い学問分野を学べるカリキュラムを実現する一方で、基本をしっかりと学び、ぐつみ食い的な履修に陥らないように、学科内で履修モデルが作成されました。コアとなる専門分野を持つていなければ、社会に出てから通用しないからです」（廣田学部長）。

学科横断型の総合的、 学際的な研究が実現

これらの改革に伴って、理工学部の教育・研究は充実の一途をたどっています。研究面では、二〇〇四年度の文部科学省ハイテク・リサーチ・センター整



▲「学生フォーミュラプロジェクト」が設計製作した車両。

フォーミュラプロジェクトなど 学生が主導する研究が活発化

学内で多様な最先端研究が進められていることに刺激を受けて、学生の研究への意欲も旺盛です。

「理工学部開設と同時に、全学科で三年度後期に学生を研究室に配属する体制にしました。早めの実験装置の使用法、英語論文の読み方などを身につけ、卒業研究にじっくりと取り組んでほしいと考えたからです」（廣田学部長）。

学部教育との連続性・継続性を確保するため、大学院も二〇〇九年度に改組。五専攻を一専攻に統合し、学科に対応する三コースを設置して、学部以上に学際的な研究を実現しています。学部で培った基礎知識をもとに、より深い研究を求めている大学院に進学する学生も増加。現在、大学院進学率は約二十五％にのぼっています。

「何よりも大きな手応えを感じているのが、学生たちに自主的な研究姿勢が芽生えていることです」と、廣田学部長は語ります。その一つが「学生フォーミュラプロジェクト」。学生自ら競技車両を設計製作し、全日本学生フォーミュラ大会に参戦するプロジェクトです。この大会では車両性能だけでなく、製造コストやプレゼンテーション能力も評価され、ものづくりの総合力が問われます。当初は卒業研究の一環でしたが、現在はサークルとして組織化し、先輩後輩で教える環境ができました。さらに、経済学部の学生も参画し、専門知識を活かして市場調査や損益計算な

工学デザイン教育を実践する システムデザイン学科へ

より時代に即した教育を実現するため、エレクトロメカニクス学科の教育内容を刷新し、二〇一二年度、同学科を「システムデザイン学科」へ名称変更します。

「システムデザイン学科では、解が一つでない課題に対して実現可能な解決策を立案し実行する能力を養う『工学デザイン教育』を導入します。問題解決を通した学びの有効性は、学生フォーミュラなどで発揮された学生の自主的姿勢に表れています。様々な課題に挑戦させ、学生の意欲を引き出してゆきます」（学科主任・小川隆申教授）。

システムデザイン学科の教育体制には、二つの大きな特徴があります。

一つは、マルチコース制による複合専門知識の修得です。学生は三次次に、機械・電気・ロボット・経営工学の四コースの中から二コースを選択します。「実問題はすべて、複数の分野が有機的に絡み合った『システム』となっています。複合専門知識を身につけることで問題解決能力を高めます」（小川教授）。

もう一つの特徴は、学生がチームを組み、実際の課題に取り組むプロジェクト型科目の大々的な導入です。

「例えば昨年度は大手自動車メーカーと共同で、歩行者にケガをさせないバンパーの設計に取り組みしました。学生達は、



▲プロジェクト型科目におけるバンパー開発の様子

中古バンパーを分解して構造を調べ、より優れた形状を考案し、シミュレーションを繰り返して性能を高めてゆきます。成果発表会では、予想以上に奥の深いアイデアが多いとメーカー担当者から高く評価されました。成績には学生間相互評価を取り入れます。『この人と再び仕事したいか？』など、学生が互いを評価し合うことで自分を客観視させるのが狙いです。将来的には、キャンパスや吉祥寺で発生している課題を学生自身が発見して取り組むなど、問題発見そのものから始まる学びに発展させてゆきたいと考えています」（小川教授）。

（企画・監修 創立一〇〇周年記念行事推進室）

この方に インタビューしました



廣田明彦学部長

大学の近況

入学式

四月十一日、桜が満開に咲き誇るなか、二〇一一年度入学式が行われました。本年度は東日本大震災の影響により、規模を縮小し、四号館ホールにて学部別に四回に分けての開催となりました。学部生千八百九十名、大学院生百八十五名を新たな仲間として迎え入れたキャンパスは、サークル勧誘に励む在学生たちの声で賑わい、スーツ姿の新入生が先輩たちの声に耳を傾けていました。



オリジナルブックカバーを作成・配付しました

本学では広報活動の一環として、三月二十二日から約三週間（なくなり次第終了）、東京・神奈川・埼玉の紀伊國屋書店十六店舗および成蹊学園ブックセンターにて、文庫本を購入された方にブックカバーを配付しました。カバーは本学の名の由来である「桃李不言下自成蹊」をテーマとした落ち着いたデザインで、好評をいただきました。また、JR中央線快速電車と武蔵野営業所管轄の関東バスに毎月掲載している本学の車内広告を、二月からは西武鉄道各線でも掲載を開始しました。西武鉄道をご利用の方はぜひ本学の広告にご注目ください。



名誉教授称号記贈呈式

六月二日、十号館大会議室において名誉教授称号記贈呈式が執り行われました。名誉教授の称号は、本学の専任教授として、満二十年以上勤務し、かつ、教育上又は学術上特に功績のあった者に対し贈られ、毎年この時期に贈呈式が行われています。今年度新たに名誉教授となられたのは次の四名の方たちです。



・相原 修 先生（経済学部）
・幸村千佳良 先生（経済学部）
・近重悠一 先生（理工学部）
・若林 功 先生（理工学部）

2010年度 成蹊大学賞・特別奨励賞受賞者一覧

●成蹊大学賞

部 門	団体名・個人名	表彰理由
芸能部門	辻 愛美 (放送研究会)	全国大学放送コンテスト朗読部門での優勝を評価した。
スポーツ部門	大河原 忠輝 (漕艇部)	東日本大学選手権競漕大会シングルスカルで1位になり、全日本の大学ポート選手権競漕大会シングルスカルで8位に入ったことを評価した。
	水泳部	全日本学生選手権に出場し、ベスト16位に入ったことを評価した。
	菅沼 孝典 (体育会ライフセービング部)	学生チーム日本一を決めるビーチリレーで4位になり、クラブチーム単位での国内最高峰の大会でビーチリレー2位になり、種目別個人日本一を決めるビーチスプリント大会で6位に入ったことを評価した。

●特別奨励賞

部 門	団体名・個人名	表彰理由
学術部門	情報分析プログラム<グループ表彰> 市瀬 智恵 遠藤 侑花 柴田 美南子 堀内 麻里 (経済学部経済経営学科3年)	パソコン統計グラフの部で1位の都知事特別賞を受賞し、統計全国グラフコンクールで佳作に入ったことを評価した。
	石川 貴大 (理工学研究科理工学専攻博士前期課程2年)	国際会議での「Excellent Poster Award」受賞を評価した。
	山口 智子 (理工学研究科理工学専攻博士後期課程2年)	国際会議での「SPACC-17 Poster Award」受賞を評価した。
芸術部門	高橋 佳那 (経済学部経済経営学科4年)	デザイン部門「二科展」自由テーマイラストに応募し入選したことを評価した。
スポーツ部門	霜田 将輔 (体育会ライフセービング部)	クラブチーム単位での国内最高峰の大会のサーフリレーで1位になり、オーションリレーでも3位に入ったことを評価した。
	浅井 達也 (体育会ライフセービング部)	学生チーム日本一を決める大会のビーチリレーで4位に入ったことを評価した。
文化部門	土岐 千沙都 小崎 直虎 (文化会英語会)	学生日本一を決める2つの大会で9位と5位になったことを評価した。
環境学術部門	因 雄亮 (理工学部情報科学科4年)	携帯電話で漫画を効率的に読むシステムを国際学会（ポルトガル）等で発表し、新聞でもこの技術が紹介され注目されたことを評価した。

2010年度 国際研究賞・国際交流賞

部 門	団体名・個人名	表彰テーマ
国際研究賞	常泉 勇 (理工学研究科理工学専攻1年)	"Hybrid Clock- based Synchronization in a Scalable Heterogeneous Group"
国際交流賞	大岡 美究 (文学部現代社会学科2年)	絆 ～Cambodia to Japan

※学生の学年・団体名は受賞時のものです

協定留学生修了式

二月一日、二〇一〇年度後期協定留学生七名の修了式が本館大講堂にて行われ、学生アドバイザーとして留学生をサポートしてきた学生をはじめ、多数の学生が参加しました。式では、修了証の授与とともに、留学生が留学生活の思い出について語る場が設けられ、留学生ならではのエピソードに時々笑いもおこる楽しい場となりました。



新入協定留学生歓迎式

四月二十二日、二〇一一年度前期協定留学生歓迎式が本館三〇二会議室にて行われました。今期の新入協定留学生は一名と少ない受入れ数となりましたが、多くの学生が協定留学生の新生活のスタートを温かく出迎え、華やかな雰囲気となりました。



体育会新入生歓迎会

五月二十日、本館大講堂にて体育会新入生歓迎会が行われました。当日は体育会伝統の制服を身にまとった新入生の緊張と熱気が、会場全体を包み込むなか、学長・学生部長より新入生の健闘を祈る激励の言葉が贈られました。



学内陸上競技大会

五月二十七日、学内陸上競技大会が、「けやきグラウンド」を会場に開催されました。通称「学陸」と呼ばれる本行事は、陸上競技大

成蹊大学賞 表彰式

本学では、学術、芸術、スポーツ、文化活動、社会活動、環境学術活動の各分野で他の学生の範となる活動を行い、優秀な成果をあげた個人及び団体に日頃の努力を称え、「成蹊大学賞」を授与しています。二〇一〇年度は二十件の応募があり、厳正なる審査の結果、左表に記す方々が受賞されました。（学年は受賞時のものです。）

表彰式は、昨年十二月十四日、本館大講堂において行われ、学長より賞状と副賞として金一封が贈られました。



国際研究賞・国際交流賞 表彰式

国際教育センターでは、年度ごとに国際性のあるトピックの研究、地域における国際性のある活動など、幅広い範囲で国際



会と運動会を兼ねた種目で構成されており、今年度も体育会・文化会団体やクラス・ゼミ単位での多数の参加がありました。時おり小雨が降るなかで新記録を狙いつつ、スポーツを通しての交流を楽しんでいました。大会終了時には、学長より優勝団体にトロフィーなどが贈られ、学生たちの晴れ晴れとした表情を見ることができました。



四大学運動競技大会（四大戦） 闘魂決起大会

伝統ある年間行事の一つ、成蹊・学習院・成城・武蔵の四大学で競い合う四大学運動競技大会（通称「四大戦」）が、十月二十一日から二十三日まで、今年度は本学を会場に開催されます。

それに先立ち、六月七日本学において闘魂決起大会が開催されました。当日は曇り気味の天候でしたが、どんよりとした空気を吹き飛ばすほどのエールが應援団長より発せられ、参加した学生は改めて優勝を誓いました。

四大戦は、昭和二十五年に第一回大会が行われて以降、一度も絶えることなく半世紀以上の間続けられてきた伝統ある行事です。体育会を中心とした正式種目はすでに対戦が始まり、現在までにスキー男子、スキー女子の二種目が終了しており、総合で本学は三位です。優勝杯を学内に飾れるよう、今後の活躍にも期待したいと思います。



性に富んだ活動を積極的に行った本学学生を表彰しています。二〇一〇年度は左表に記す二名が受賞し、一月三十一日に賞状と副賞として金一封が贈られました。

オープンキャンパス

今年度のオープンキャンパスは、左記のとおり開催されます。当日は、キャンパス見学ツアーや体験講義、成蹊大学ガイダンスなど、成蹊をより深く知るためのイベントが多数行われます。教職員や在学生と直接触れ合うチャンスも多く、成蹊の魅力と雰囲気を経験できる内容となっています。高校生を主な対象としていますが、事前の申し込みは不要で、どなたでもご参加いただけます。

● 第一回 八月六日（土）・七日（日）
● 第二回 十月二日（日）
● 第三回 十一月二十日（日）
「樺祭」（大学祭 期間中）
各回とも十時より受付開始で十六時受付終了予定です。時間内の入退場は自由です。

中学・高等学校の近況

東日本大震災とその影響

三月十一日に発災した東日本大震災は大きな爪痕を残し、自然災害の恐ろしさを再認識させられました。被災地の皆さま、ご親戚、お知り合いが被災された方には心よりお見舞い申し上げます。

当日は中高とも期末テストの答案返却日にあたり、高校の返却は午前中で終了し、部活動等で発災時に生徒の三分の一が在校していました。また中学は全員が在校中でした。中高とも教員の指示に従い安全確保に努め、余震の収束を待って生徒たちを所定の避難場所に集合させ安否確認をしました。幸い怪我もなく全員の無事が確認でき、また建物や諸施設にも大きな損害はありませんでした。しかし鉄道を中心として交通機関が麻痺、帰宅不可能となった高校生約百名、中学生三百名余の計四百名以上が学校に宿泊、教員も多数宿泊しました。ライフラインはすべて正常に機能したため、問題が生ずることはありませんでした。

翌週からは通常の学校運営に戻す予定でしたが、計画停電の影響等で学園として児童、生徒、学生、卒業式等の年度末行事もやむなく中止し、三月二十四日に卒業式に代えて「卒業証書を授与する会」を中学校校舎で実施いたしました。

三月末からはクラブ活動を制限付きながら再開し、四月の入学式以降通常の運営に戻しました。しかし、震災に伴う電力不足には正面から取り組む必要があり、今後何かとご不便をかけることも多いと思います。生徒、保護者の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

年明けの行事 ― 高校学習旅行 ―

冬休み中に、二つの学習旅行が実施されました。ひとつは昨年に続いて実施のフイレンツェ、もうひとつは新設コースの中国・香港コースです。ここでは、中国・香港コースのご紹介をしたいと思います。一月四日から八日まで、高校二年生の希望者十九名が広州、深圳および香港を訪ねる学習旅行

運動部・文化部の活躍		
● 中学男子バスケットボール部		
第61回東京都中学校バスケットボール新人大会	第3位	
第24回都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会		
東京都選抜チーム	伊藤耕太郎	出場
● 中学スキー部		
第23回東京都中学校スキー大会		
回転	瓦井海年	第4位
大回転	瓦井海年	第2位
(以上、全国中学校スキー大会へ出場)		
学校対抗(団体)	男子の部	第3位
第11回国体都大会ポイント競技会		
大回転 男子少年の部	瓦井海年	優勝
第66回国民体育大会冬季スキー競技会東京都大会		
大回転 男子少年の部	瓦井海年	第5位
(国民体育大会東京都代表として出場)		
● 第31回全国中学校スケート大会		
フィギュアスケート競技	庄司理紗	優勝
● 高校スキー部		
全国高等学校スキー大会・関東高等学校スキー大会		
東京都予選大会		
回転	大高裕生	第9位
大回転	大高裕生	第10位
(以上、関東大会・全国大会へ出場)		
女子回転	白旗あず沙	第7位
● 高校生物部		
日本生物教育学会	第90回全国大会	
ポスター発表	刈谷花梨	優秀賞
	橘美沙	優秀賞
	山岸麟太郎	優秀賞
● 高校天文気象部		
ジャパン・サイエンス&エンジニアリング・チャレンジ		
最終審査会		出場

小学校の近況

卒業証書を授与する会

震災に関する学園からのご報告にありますように、小学校の第九十五回卒業式は中止となり、三月二十二日と二十九日に、小学校本館一階けやきホールで「卒業証書を授与する会」を行いました。保護者の皆さまと教職員が見守る中、百二十二名の卒業生が卒業証書を手に巣立っていきました。小学校創立以来の一万人を超える多くの先輩に続いて、輝かしい未来を逞しく切り拓いてほしいと願っています。

平成二十三年度・小学校入学式

成蹊小学校の新年度の始まりは四月五日でした。この日を新学期準備として新教室に移動し、四月六日に始業式に続いて入学式を行いました。今年度入学者は、新一年生は百十二名、国際学級新四年生が十三名の計百二十五名でした。

入学した子どもたちは、遠足や運動会などの行事の中でも成蹊小学校の生活にすっかり溶け込んだ元気な姿を披露しました。一人ひとりの健康で個性豊かな成長を楽しみにしております。

3月11日の子どもたち



①地震発生後、小学校プラグラウンドに一次避難する



②気温低下に対応し、防災倉庫より毛布等を搬出する



③小学校体育館通路で暖をとる児童



④保護者の引取りを待つ児童に教職員が夜食等の対応をした

⑤3月12日午前中に保護者への児童引渡し完了

国だ。初日から広州の巨大なタワーや高層ビルに圧倒され、一方でバスの運転手さんのアグレッシブな運転などに、人々の熱気を体感した。翌朝訪れた公園は太極拳や球技に興じる中高年層の人たちで溢れ、その活力に度肝を抜かれた。三日目には深圳中学で同い年の高校生たちに歓迎を受け、交流するなかで英語も堪能である彼らの自主性と勤勉さに驚かすにはいられなかった。同日移動した先の香港では現地の大学生に連れられ、中国はおろか世界経済を牽引する巨大都市の光景に魅せられた。

現地の日本企業にも訪問させていただいた。二日目に訪れた広州やクルトでは、中国経済を「勝ち馬」に例え「いかに勝ち馬に乗るか」を社の命題としていた。四日目の香港三菱商事では香港の原動力、ラマ発電所を見学した上で、企業活動に「国境」はなく、「人」についても国に拘らず視野を積極的に広げ、経験を重ねることが大事だと教わった。

今回四泊五日間の行程を無事終え、私たちは一人ひとり色々なことを感じたと思う。旅の全てを振り返ることは紙幅の都合上出来なかったが、あらゆる場面で今大きく発展しようとしている中国は、今までもこれからもその「人」のパワーの存在を抜きに考えられないということを改めて感じた。今回の旅で視野を広げ、実体験でしか知れない中国を見ることが出来たのを幸いと思う。

(二年 田中直人)

行事で見えた「自立・連帯・創造」の姿

～平成二十二年度全校音楽会から～

成蹊小学校では、十月の文化祭後に全校音楽会を実施しています。昨年十二月二日に武蔵野市民文化会館大ホールで第十七回音楽会を行いました。全学年の合唱や合奏を聴き、子どもたちの六年間の成長を感じることができた。全校音楽会は、保護者の皆さまにも好評で、会場整理を毎年PTA役員の皆さまにお世話いただくほどの盛況ぶりです。

もちろん子どもたちにとっても、自他の音楽発表は印象深いものです。昨年度の一年生が、音楽会の感動を次のような日記に表しました。

音がくかい

きょうは、はじめての音がくかいでした。音がくかいでは、いままで、いっしょうけんめいれんしゅうしてきた「きりのきむらへおよめいり」をがっきでえんそうし、「あなたへのメッセージ」というきよくを、どうとくと、おあさまたちや、おとうさまたちに、おみせしました。けれども、おきやくさまは、「まん人もいるので、ぶたいに立つと、とてもとっても、きんちようしました。でも、いっしょうけんめい、がんばってえんそうしました。わたしは、みんな、じょうずにえんそうできたとおもいます。あなたへのメッセージも、こえがそろっていました。ぶたいに立つのは、はじめてだけど、みんなと力をあわせたので、すばらしい

音がくかいになったとおもいます。そして、わたしたちは、二年生から六年生までのがっそうを見ていました。その中で、六年生が、すごくよかったですとおもいます。バイオリンや、フルートや、シンバルなどのがっきをつかって、すてきな音を出していて、うたも、二きよくありますが、どちらも、すてきなきよくです。つらくてもかなしくても、なかまがいる。だからみんな、たすけあおう。というようなたで、ここに、ひびきわたりました。六年生は、すばしかったです。そして、一年生から五年生までのみんなも、せいじつぱいがんばったとおもいます。そのがんばりを、ずっとここにしまっておきます。(一年女児)



【全校】 合唱「素晴らしい言葉」

【二年生】 合唱奏「のはらうた」

【三年生】 合唱「かぞえた」

【一年生】 合唱奏「きりの木むらへおよめいりー踊りと共に」

【四年生】 合唱「あなたへのメッセージ」

【五年生】 合唱「希望と語る名の花を」

【六年生】 合唱「HEIWAの鐘」

合奏「威風堂々第1番」

成蹊学園創立一〇〇周年 記念事業募金 寄付申込者ご芳名



成蹊学園創立一〇〇周年記念事業募金の趣旨にご賛同賜り、多数の皆さまから心温まるご支援をいただきました。
ここに第三十一回のご芳名を発表し、ご協力を賜りました方々のご芳志に厚く御礼申し上げます。

掲載要項

- 掲載区分は、①法人、②団体・その他、③個人の三区分で、個人については、在学生父母・同窓生（同窓会別）・篤志家・教職員（学園関係者を含む）に分類しています。
- 原則として、掲載区分・ご芳名等は、申込書に記入された表記に基づいております。
- 匿名を希望された方々のご芳名は掲載しておりません。

寄付入金状況(2011年2月28日現在)

単位(千円)

区分	入金件数※	寄付金額
在学生父母	1,659	187,846
同窓生	4,873	214,886
教職員・学園関係者	3,628	92,605
法人・団体その他	681	1,043,013
合 計	10,841	1,538,350
上記の他お申込額		46,820
総合計		3,401,854

※入金件数には分割納入分が重複しています。

※総合計には2003年度以降の教育充実資金を含みます。

募金局からのお知らせ

東日本大震災により 被災した学生を支援する奨学金が、 募金対象事業に加わりました

成蹊学園では、創立100周年記念事業募金の対象事業に、この震災により被災した本学学生を支援する奨学金（給付）を追加し、皆さまのご協力を募ることといたしました。詳細につきましては「募金趣意書」またはホームページをご覧ください。
「募金趣意書」をご希望の方は募金局までご連絡ください。皆さまからの温かいご支援を賜りたく、心よりお願い申し上げます。

第Ⅱ期寄付者銘板が 設置されました

この度、第Ⅱ期寄付者銘板を本館一階ロビー西側に設置いたしました。第Ⅱ期寄付者銘板では、二〇〇六年一月から二〇〇九年十二月末までにご寄付賜りました方々のご芳名を顕彰させていただきます。二〇一〇年一月以降にご寄付賜りました方々につきましては、第Ⅲ期寄付者銘板として、数年後に顕彰させていただきます予定です。



寄付者銘板

【お問い合わせ先】 成蹊学園 創立100周年記念事業募金局 電話：0422-37-3941 / e-mail: fund@jim.seikei.ac.jp

第1表 【消費収支計算書】(要約)

2010 (平成22) 年4月1日から2011 (平成23) 年3月31日まで (単位：百万円)

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	11,569	11,590	21
手数料	720	794	74
寄付金	387	396	8
補助金	1,487	1,640	153
(国庫補助金)	(778)	(881)	(102)
(地方公共団体補助金)	(706)	(757)	(52)
(その他補助金)	(3)	(2)	(△ 1)
資産運用収入	397	439	41
資産売却差額	0	1	1
事業収入	213	205	△ 8
雑収入	257	302	44
帰属収入合計	15,030	15,366	335
基本金組入額合計	△ 1,068	△ 718	350
消費収入の部合計	13,962	14,647	685

消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	8,099	7,901	△ 199
教育研究経費	4,503	4,367	△ 136
管理経費	942	880	△ 61
借入金等利息	3	3	0
資産処分差額	15	64	49
徴収不能引当金繰入額	19	9	△ 10
徴収不能額	0	11	11
〔予備費〕	(77)		△ 153
	153		

消費支出の部合計	13,734	13,234	△ 500
当年度消費収支差額	228	1,413	
前年度繰越消費収支差額	△ 2,194	△ 2,194	
次年度繰越消費収支差額	△ 1,966	△ 781	

第3表 【貸借対照表】(要約)

2011 (平成23) 年3月31日 (単位：百万円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	77,483	76,285	1,198
有形固定資産	44,378	45,605	△ 1,227
土地	6,237	6,237	0
建物・構築物	31,158	32,480	△ 1,323
教育研究用・その他の機器備品	1,671	1,749	△ 78
図書	5,310	5,137	172
その他	2	1	1
その他の固定資産	33,105	30,681	2,424
有価証券	3,432	4,332	△ 900
指定包括信託	1,483	1,495	△ 12
特定目的引当資産	18,835	15,628	3,207
第3号基本金引当資産	8,903	8,799	104
その他	452	426	26
流動資産	14,307	13,424	883
現金預金	11,689	11,734	△ 45
有価証券	2,298	1,199	1,099
その他	319	491	△ 171
資産の部合計	91,790	89,710	2,080

※百万円単位で表示する際に百万円未満を四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。

第2表 【資金収支計算書】(要約)

2010 (平成22) 年4月1日から2011 (平成23) 年3月31日まで (単位：百万円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	11,569	11,590	21
手数料収入	720	794	74
寄付金収入	387	347	△ 40
補助金収入	1,487	1,640	153
(国庫補助金収入)	(778)	(881)	(102)
(地方公共団体補助金収入)	(706)	(757)	(52)
(その他補助金収入)	(3)	(2)	(△ 1)
資産運用収入	397	439	41
資産売却収入	1,200	1,264	64
事業収入	213	205	△ 8
雑収入	257	302	44
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	2,158	2,540	382
その他の収入	1,528	1,355	△ 173
資金収入調整勘定	△ 2,717	△ 2,753	△ 36
前年度繰越支払資金	11,734	11,734	
収入の部合計	28,934	29,457	523

支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	8,217	7,996	△ 221
教育研究経費支出	2,608	2,474	△ 134
管理経費支出	777	725	△ 52
借入金等利息支出	3	3	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	606	382	△ 224
設備関係支出	431	430	△ 1
資産運用支出	5,460	5,621	160
その他の支出	654	670	16
〔予備費〕	(105)		△ 245
	245		
資金支出調整勘定	△ 609	△ 534	74
次年度繰越支払資金	10,541	11,689	1,148
支出の部合計	28,934	29,457	523

負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	4,631	4,828	△ 197
長期借入金	401	502	△ 100
長期未払金	1	2	△ 1
退職給与引当金	4,228	4,324	△ 96
流動負債	3,285	3,139	146
前受金	2,540	2,440	101
その他	745	700	45
負債の部合計	7,916	7,967	△ 51

基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	74,667	74,053	614
第3号基本金	8,903	8,799	104
第4号基本金	1,084	1,084	0
基本金の部合計	84,654	83,936	718

消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
次年度繰越消費収支差額	△ 781	△ 2,194	1,413
消費収支差額の部合計	△ 781	△ 2,194	1,413

科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部 および消費収支差額の部合計	91,790	89,710	2,080

2010年度 決算及び事業報告について

学校法人成蹊学園の2010年度決算は、学園監事及び監査法人の監査を受け、5月31日の理事会・評議員会において、確定いたしました。2010年度の消費収支のバランスを表す消費収支計算書（第1表）についての概要は、次のとおりです。

納付金、手数料、補助金、資産運用収入などの本学園に帰属する「帰属収入」は合計で153億66百万円となりました。また、「基本金組入額」の合計は7億18百万円となり、うち第1号基本金は、2010年度に建設・購入等により取得した、建物、構築物、機器備品、図書等の資産分として6億14百万円、第3号基本金は三菱留学生奨学金基金等の積上げ分の1億4百万円となっています。

帰属収入からこの基本金組入額を控除した額が、消費（支出）に充当できる「消費収入」で、その額は146億47百万円となりました。

一方、教職員の人件費、教育研究・管理経費（減価償却額を含む）、借入金利息等の「消費支出」の合計は、132億34百万円となり、この結果、消費収入から消費支出を差し引いた消費収支差額は、14億13百万円の消費収入超過となりました。消費収支計算書の主な増加・減少要因等は次のとおりです。

- 納付金は帰属収入に占める最大の収入要因であり、その割合は約75%となりました。
- 教育研究経費・管理経費は委託費や光熱水費などの節減等により減少しました。
- 当年度の収支差額は2億28百万円の消費収入超過を見込んでおりましたが、予算と比較して帰属収入が3億35百万円増加したこと、基本金組入額が3億50百万円、消費支出が5億円減少したことから、14億13百万円の消費収入超過となりました。繰越消費収支差額は、前年度から繰越された21億94百万円の支出超過額から今年度の収入超過額を減じて、7億81百万円の支出超過となりました。

第2表の資金収支計算書は、教育研究など学園全体の諸活動に伴う資金の動きが全て網羅されています。総額は294億57百万円となり、次年度繰越支払資金は116億89百万円となりました。

2010年度に実施した主な事業は次のとおりです。

創立100周年記念事業

国際教育センター

- ①2010年度入学生から大学において成蹊教養カリキュラムを開始しました。英語教育の重視を基本方針の一つとしており、英語力判定テスト、レベル別クラス分け、学習効果測定などの立体的なプログラムにより在学中の英語力の向上を目的とした「ASSET－Program (All Seikei Students' English Training Program：全学英語力強化プログラム)」を行っています。1・2年次で計3回のテスト(TOEIC－IP (2年次はTOEFL－ITP))を実施します。
- ②毎年度取り組んでいる小学校の多読プログラムは、2009年度から1年生から4年生までを対象にしたリードアラウドWorkshop（年9回実施）と5・6年生を対象にしたReading For Fun Workshop（年9回実施）として内容の充実を図りました。Read Aloud文庫も各学年のワークスペースに絵本を配置し多読教育の基礎を築いています。また、英語コミュニケーション能力の検証を行うため6年生が児童英語検定を受検しました。
- ③ケンブリッジ大学の学生劇団であるペンブルックプレイヤーズが4度目の来校をし、9月に大学4号館ホールにおいて「から騒ぎ」成蹊公演を行いました。学園の児童・生徒・学生のほか保護者や地域の方々計470名が来場しての盛況な開催となりました。また、ケンブリッジ大学の学生と学園の中学生・高校生・大学生と一緒に、当日の劇に親しむための事前学習としてワークショップを開催し、交流を深めました。
- ④児童期からの国際理解教育を進展させるため、8月の10日間、成蹊小学校の児童16名がオーストラリアのカランドラクリスチャンカレッジで体験学習を実施いたしました。
- ⑤2006年度から開始した成蹊高校生対象のケンブリッジ大学ペンブルックカレッジへの短期留学について、2010年度は7月に高校生26名を派遣しました。

学園環境の整備

●ケヤキ並木の整備

成蹊学園が池袋から吉祥寺に移転してきたときに教職員・生徒が植樹したケヤキ並木は、樹齢約86年となり大きく茂った枝は枯れて中が空洞になっているところもあり、安全対策並びに樹勢維持のための樹木の点検・整枝を行いました。

●箱根寮の整備

2009年度に旧箱根寮の宿舍跡地の東側広場に設置したバーベキューコーナーは利用者の好評を得ていますが、雨天時の利用を可能にするために屋根を設置しました。また、例年行っているシャクナゲの植樹は、寮からバーベキューコーナーへ至る園路に植樹しました。他に、小学校の自然教育と連携を図るため芦ノ湖際の法面の植林整備、猪対策の柵の設置、旧クラブハウス跡のモニュメントの補強工事などを実施しました。

研究活動の高度化

文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の研究助成金を受けて推進している理工学部「人と環境に優しい統合化された社会システム研究基盤整備」の研究は、3年目を迎え文部科学省に中間報告を提出し、2011年度以降の事業継続を認められました。

学園施設の再開発

- 中高第一体育館の改修
中高第一体育館は取得から約47年が経過し老朽化が目立つことから、耐震補

強工事を主とした改修を実施しました。

●サッカー場・ハンドボールコートの改修

サッカー場とハンドボールコートは2000年に人工芝を敷設しましたが、老朽化が目立つことから張替えを実施しました。シュート板や電動タイマー・得点板なども新設しました。

●大学9号館地下エネルギーセンター熱源・空調機改修

大学の教室棟の空調を管理している大学9号館地下の熱源装置は、設置後17年を経過し老朽化が目立つため、3基ある熱源を停止させることなく段階的に交換を実施しています。当初3年間で交換する計画でしたが2年間で実施することとし、2010年度は冷温水循環用ポンプならびにその制御盤を交換しました。また、エネルギーセンターの空調機も同じ理由により交換しました。

●トラスコンガーデンGHP改修

元々は体育館であったトラスコンは1993年に大規模な改修を実施し、現在はカフェテリアとして利用されています。その改修時に設置したGHPは老朽化が目立つことにより交換しました。

なお、大学9号館地下エネルギーセンター熱源・空調機改修とトラスコンガーデンGHP改修は東京都環境確保条例（正式名称：都民の健康と安全を確保する環境に関する条例）に定める基準を達成するためにも必要とされる改修となります。

学習・教育支援体制の整備

●大学3・5・8・9号館の視聴覚設備改修

大学3号館（4教室）、大学5号館102室、大学8・9号館（3教室）の視聴覚設備は、通常の授業や学内行事などで頻繁に利用されていますが、最近は経年劣化による老朽化が目立ち始めましたのでデジタルハイビジョンに対応する新規視聴覚システムに改修しました。

●大学西1号館情報機器および視聴覚機器の入れ替え

2004年度に開設した法科大学院は、夜間の講義も実施していることから、受講できなかった大学院生に対しその授業風景を映像コンテンツとして配信するシステムを使用していますが、録画・配信プロセスの簡易化と老朽化対策のためシステムの入れ替えを行いました。

●中高化学実験室実験台入れ替え等

中高理科館の化学実験室と化学講義室で使用している実験台は、天板が木製であることから、耐薬品性に優れた実験台に入れ替え、給排水設備の改修も同時に実施しました。

●小学校スタジオ・テレビ放送設備改修

日々の教育活動や学習活動の教材化、学校行事の記録・編集、放送委員会の番組作成や校内テレビ放送などに活用している小学校のスタジオ・テレビ放送設備は2001年の導入から8年が経ち老朽化が目立つことから新システムに入れ替えました。

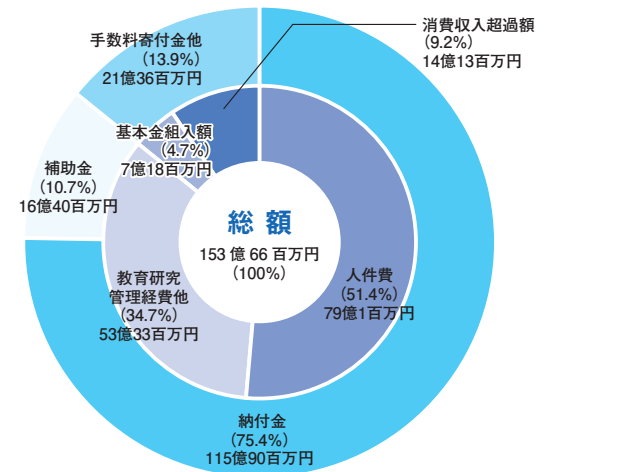
- 学内のバリアフリー推進の一つとして、2010年度は大学3号館の西側入り口と大学4号館の東側入り口に自動扉を設置しました。

その他の事業

- 成蹊学園の各校の在校生や卒業生並びに保護者などの成蹊関係者が出演する第4回成蹊音楽祭を、学園本館大講堂で12月に開催いたしました。当日は、第1部で在校生・卒業生・保護者の方々の演奏やコース、第2部では卒業生と成蹊大学管弦楽団有志をメンバーとして新たに結成された成蹊けやき管弦楽団が卒業生の高井優希さんを指揮者としてオーケストラの演奏を行い、成蹊関係者のみではなく近隣の皆さまにも音楽会を堪能していただきました。

2010年度消費収支計算書を図で表すと、次のとおりです。

基本金組入額は、計算書では帰属収入合計から控除することになっていますが、図では支出額に加えて表示しています。



2011年度 事業計画・予算の概要

2011年度予算は、理事会、評議員会の議を経て、第1表及び第2表のとおり決定いたしました。

学園では、2012年の創立100周年に向けて記念事業を進めてきましたが、2009年度までで建築計画が無事一段落いたしました。引き続き国際化教育の推進や学園環境整備などの記念事業は継続していきます。また、学園創立100周年記念式典を2012年5月12日に東京国際フォーラムで開催することが決定しました。それに向けて2010年度からは連続講演会や学生、卒業生主体の創立100周年記念行事が実施されており、2011年度もシンポジウムなどさまざまな記念行事が開催される予定です。

今後も少子化による学校間競争は益々激しくなり、私立学校の経営環境は一層厳しさを増していきます。2011年度予算は、概観すると2010年度予算とは反対に、厳しい収支状況となります。消費支出額が消費収入額を大きく上回り、当年度消費収支差額は7億47百万円の支出超過となります。その主な要因は、学園創立100周年の後に実施する建築計画が承認されたことによりその取得予定額を基本金に組み入れるため、消費収入が減少することによります。2011年度の基本金組入額の総額は16億30百万円（うち建築計画用に入れる第2号基本金組入額は10億円）となり、この額を帰属収入から差引くことによるため消費収入は大きく減少しています。なお、今回の建築計画に伴う基本金の組み入れは、2014年度の建築完了に向けて2012年度も同額の組み入れを実施することにより今後数年の間は厳しい収支状況が継続する見込みです。

第1表の消費収支予算書は、消費収入と消費支出の均衡の状態とその内容を明らかにすることにより、学園の経営状況を把握するものです。消費収入の部では、納付金が前年度より1億9百万円減少する見込みですが、これは新入生の納付金を入学定員数で積算していることに対して前年度予算額では実入学者数により補正したことによります。その他、手数料、寄付金、補助金などの実質的収入である帰属収入の合計は149億18百万円となり、昨年度より1億12百万円減少しています。

基本金組入額は学校運営のために基本的に必要とする建物、機器備品、図書等の取得額（第1号）、将来の校舎等の取得のため計画的にその支払資金を積上げる施設設備整備資金（第2号）で、その合計額は16億30百万円となります。帰属収入から、この基本金組入額を控除した額が消費に充てられる消費収入で、その額は132億88百万円となります。一方、消費支出の部では、人件費、教育研究・管理経費などの消費支出合計は140億35百万円となります。

この結果、消費収入合計と消費支出合計の差額7億47百万円が消費支出超過額となる見込みです。

第2表の資金収支予算書は、教育研究など学園全体の諸活動に伴う資金の動きが全て網羅されており、予算総額は301億57百万円です。収入の部のその他の収入は、退職金の支払資金及び施設の建設や改修の支払資金等に充当するため、過年度に積上げていた資金の取崩し額です。一方、支出の部の資産運用支出は、施設設備整備資金引当特定資産や施設拡充引当特定資産など計画に基づく資金の積上げです。

2011年度における学園創立100周年記念事業など主な事業計画は次のとおりです。
●**国際教育センター**
2010年度入学生から大学において成蹊教養カリキュラムを開始しています。

第1表【消費収支予算書】（要約）

2011（平成23）年4月1日から2012（平成24）年3月31日まで（単位：百万円）

消費収入の部			
科目	予算額	前年度予算額	増減
学生生徒等納付金	11,460	11,569	△ 109
手数料	723	720	3
寄付金	221	387	△ 166
補助金	1,529	1,487	42
（国庫補助金）	(817)	(778)	(39)
（地方公共団体補助金）	(708)	(706)	(2)
（その他補助金）	(4)	(3)	(1)
資産運用収入	394	397	△ 3
事業収入	218	213	5
雑収入	373	257	116
帰属収入合計	14,918	15,030	△ 112
基本金組入額合計	△ 1,630	△ 1,068	△ 562
消費収入の部合計	13,288	13,962	△ 674

消費支出の部			
科目	予算額	前年度予算額	増減
人件費	8,446	8,099	347
教育研究経費	4,360	4,426	△ 66
管理経費	961	942	19
借入金等利息	3	3	0
資産処分差額	14	15	△ 1
徴収不能引当金繰入額	21	19	2
〔予備費〕	230	230	0
消費支出の部合計	14,035	13,734	301
当年度消費収支差額	△ 747	228	
前年度繰越消費収支差額	△ 1,966	△ 2,194	
次年度繰越消費収支差額	△ 2,713	△ 1,966	

英語教育の重視を基本方針の一つとしており、学生が4年間で総合的に英語を学ぶプログラム「ASSET-Program (All Seikei Students' English Training Program: 全学英語力強化プログラム)」を実施しています。1・2年次で計3回のテストを行います。そのうちの1年次4月実施分の予算を学園創立100周年記念事業にに対していただいた寄付金から支出いたします。

小学校においては、小学校Read Aloud Workshopを2013年までの5年計画で実施しています。Read Aloud文庫の充実も継続して行うこととし、多読教育の基礎を築きます。また、確かな英語コミュニケーション能力の育成を目指し、6年生に児童英語検定を受検する機会を与えることにより英語教育の検証を行います。なお、この予算も大学と同様学園創立100周年記念事業に対していただいた寄付金から支出いたします。

中学・高等学校では例年通りイギリスのケンブリッジ大学ペンプルックカレッジへの短期留学プログラムを実施します。また、2011年度はオーストラリアのカウラ高校への短期留学プログラムも実施いたします。

●学園環境の整備

ケヤキ並木の整備

成蹊学園が池袋から吉祥寺に移転してきたときに教職員・生徒が植樹したケヤキ並木の樹勢維持並びに安全対策のため点検・整枝を2010年度に引き続き実施いたします。

箱根寮の整備

2010年度に引き続き箱根寮の整備をいたします。2011年度は箱根寮2階の各客室に空調機を設置いたします。また、バーベキューコーナーは利用者的好评を得ておりますので付近の広場の整備を継続し、新たに自然観察路の整備をいたします。

●奨学基金の新設・拡充

2006年度から三菱留学生奨学金制度を新たに設け、過去5年間で5億円を第3号基本金に組み入れ、組み入れ計画が完了しました。ここから生まれる果実は、主に長期の留学奨励のための奨学金として支給いたします。

●学園施設再整備

谷川岳の山麓にある虹芝寮は約80年前に建てられましたが、老朽化が著しい状態となってきたことから、改修工事を行うことといたします。また、2004年6月から東京都受動喫煙防止ガイドラインが策定されており、従来学園内は指定された屋外に喫煙場所を限定する分煙化を実施してきましたが、大学エリア内に3か所の屋根付き、仕切り付きの喫煙スペースを設け、一層の分煙化を推進することといたします。

●学生指導・支援体制の整備

2010年度に引き続き大学3号館の比較的小規模な教室の視聴覚設備を新システムに入れ替えます。中学・高等学校では中高特別教室棟大教室に新たな視聴覚設備を設置します。また、特別教室棟の南側に楽器倉庫を新設します。小学校では校内テレビ放送設備のデジタル化を実施いたします。また、ボプラグラウンドの散水設備を改修いたします。他には、野球場の外野の芝部分の改修工事を行います。また、バリアフリー推進のため大学8号館の西側入口に自動ドアを設置します。

●環境保全活動の推進

成蹊学園では、2008年11月にISO14001の認証を取得いたしました。2011年度も引き続きPDCAサイクルにより、さらなる環境マネジメントシステムに基づく環境保全活動を推進します。

第2表【資金収支予算書】（要約）

2011（平成23）年4月1日から2012（平成24）年3月31日まで（単位：百万円）

収入の部			
科目	予算額	前年度予算額	増減
学生生徒等納付金収入	11,460	11,569	△ 109
手数料収入	723	720	3
寄付金収入	221	387	△ 166
補助金収入	1,529	1,487	42
（国庫補助金収入）	(817)	(778)	(39)
（地方公共団体補助金収入）	(708)	(706)	(2)
（その他補助金収入）	(4)	(3)	(1)
資産運用収入	394	397	△ 3
資産売却収入	2,300	1,200	1,100
事業収入	218	213	5
雑収入	373	257	116
前受金収入	2,166	2,157	9
その他の収入	2,783	1,529	1,254
資金収入調整勘定	△ 2,551	△ 2,717	166
前年度繰越支払資金	10,541	11,735	△ 1,194
収入の部合計	30,157	28,934	1,223

支出の部			
科目	予算額	前年度予算額	増減
人件費支出	8,636	8,217	419
教育研究経費支出	2,512	2,531	△ 19
管理経費支出	783	778	5
借入金等利息支出	3	3	0
借入金等返済支出	100	0	100
施設関係支出	705	606	99
設備関係支出	295	403	△ 108
資産運用支出	8,029	5,460	2,569
その他の支出	691	654	37
〔予備費〕	350	350	0
資金支出調整勘定	△ 602	△ 609	7
次年度繰越支払資金	8,655	10,541	△ 1,886
支出の部合計	30,157	28,934	1,223

● 創立100周年特設サイトがオープン ●

創立100周年に向け、特設サイトがオープンしました。学園のさまざまな取り組みや行事を順次お知らせしていきますので、ぜひご覧ください。

〈学園HP〉

▶▶ <http://www.seikei.ac.jp/>
「特設サイト」バナーをクリック

● 記念ワインと日本酒を販売しています ●

中村春二先生の遺墨などをラベルのデザインに採用した記念ワインと日本酒を販売しています。売り上げの一部は東日本大震災の被災学生への支援奨学金にあてられます。詳細は同封のパンフレットまたは特設サイトをご覧ください。

● ホームカミングデーを開催します ●

2012年4月1日の成蹊桜祭を、創立100周年記念ホームカミングデーとし、さまざまなイベントを開催する予定です。卒業生の皆さまにとっては学生時代の懐かしい顔に再会できる機会となります。



● 記念式典を開催します ●

学園創立100周年記念式典を、2012年5月12日(土)に東京国際フォーラムにて開催します。学園創立者中村春二先生を主人公とした記念ドキュメンタリードラマの上映をはじめ、さまざまなイベントを開催します。ドラマ製作の過程など、式典の詳細は順次特設サイト等にてお知らせしていきます。

● 新聞広告『たしかなあしぶみ』掲載 ●

記念式典の1年前となる5月12日に、中村春二先生が成蹊中学校（旧制）の卒業生に贈った口語詩『たしかなあしぶみ』を題材にした新聞広告（全面）を掲載しました。（朝日新聞東京セット版朝刊、日本経済新聞全国版朝刊）特設サイトにも掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

● バナーフラッグを掲出しています ●

創立100周年のバナーフラッグをキャンパス内に掲出しています。学園のロゴマークのカラーである、ピンク、グリーンのフラッグが交互に配置され、キャンパス内を華やかにしています。



創立100周年 記念行事推進室からのお知らせ

成蹊学園は2012年 創立100周年を迎えます

建学の理念のもと、培ってきた伝統を守りながら新しい時代へ向け、新たな一歩を踏み出します。創立100周年記念行事のコンセプトを『「心の力」を、未来へ。』、サブコンセプトを『「教養ある豊かな人間性」で、時代をひらく。』とし、さまざまな企画を展開していきます。



『心の力』を、未来へ。
「教養ある豊かな人間性」で、時代をひらく。

学園組織・役職者一覧

● 学園組織一覧

法人	総務部	総務課	0422-37-3503
		人事課	0422-37-3505
		広報課	0422-37-3517
	財務部	経理課	0422-37-3508
		管財課	0422-37-3511
	健康支援センター	健康支援センター事務室	0422-37-3518
	国際教育センター	国際課	0422-37-3536
	学園史料館		0422-37-3994
創立 100 周年記念行事推進室		0422-37-3941	
学園機構改革準備室		0422-37-3488	
大学	企画運営部	企画運営課	0422-37-3531
		研究助成課	0422-37-3705
	教務部	経済学部担当	0422-37-3703
		理工学部担当	0422-37-3551
		文学部担当	0422-37-3736
		法学部・法科大学院担当	0422-37-3556
		教職・証明書	0422-37-3553
	学生相談室		0422-37-3807
	学生部	学生生活課	0422-37-3539
		大学保健室	0422-37-3518
	図書館	図書館事務室	0422-37-3544
	情報センター	情報システム課	0422-37-3611
	アジア太平洋研究センター		0422-37-3549
キャリア支援センター	キャリア支援センター事務室	0422-37-3537	
入試センター	入試センター事務室	0422-37-3533	
中学・高等学校	中学・高等学校事務室	0422-37-3849	
小学校	小学校事務室	0422-37-3838	
内部監査室		0422-37-3902	

● 役職者

成蹊学園	
理事長	佃 和夫
専務理事	加藤 節
総務部長	茂木 聡
兼 創立100周年記念行事推進室部長	
総務部担当部長	岡田 かおる
兼 総務課長	
財務部長	早野 潔
兼 学園機構改革準備室長	
学園機構改革準備室担当部長	高浜 武則
兼 図書館事務部長	
健康支援センター長	小川 隆申
国際教育センター所長	井上 智夫

成蹊小学校

校長	金納 善明
教頭	大場 繁

成蹊中学・高等学校

校長	両角 雄功
教頭	吉崎 純二
教頭	跡部 清

成蹊大学	
学長	亀嶋 庸一
副学長	川越 俊彦
経済学部長	
大学院経済経営研究科長	藤垣 芳文
理工学部長	
大学院理工学研究科長兼工学研究科長	廣田 明彦
文学部長	
大学院文学研究科長	門口 充徳
法学部長	
大学院法学政治学研究科長	小林 登
大学院法務研究科長	萩澤 達彦
企画運営部長兼入試センター事務部長	鐘川 誠司
教務部長	秋庭 正典
学生相談室長	牟田 悦子
学生部長	三浦 國泰
図書館長	渡邊 一衛
情報センター所長	岩崎 学
情報センター事務部長	三浦 俊哉
アジア太平洋研究センター所長	中神 康博
キャリア支援センター所長	北川 浩
キャリア支援センター事務部長	伊藤 昌弘
入試センター長	大倉 元宏

2012 年度
入学試験日程

大学

全学部統一入試を吉祥寺（本学）・横浜・さいたまの3会場で実施。

一般入試の成績上位者（S方式は合格者全員）には奨学金を給付。

本学は昨年度実施された一般入学試験において、おかげさまで 25,251 名の志願者を集め、4 年連続で志願者増を達成することができました。今年度の入学試験においても、昨今の経済不況による大学進学を取り巻く影響に配慮し、これまで同様に一般入試（E・A・C 方式）の成績上位者と大学入試センター試験利用理工学部奨学金付入試（S 方式）の合格者全員に初年度年間授業料の半額相当を給付いたします。

● E 方式（全学部統一入試）：2 教科型

学 部	学 科	募集人員	出 願 期 間	試 験 日	合 格 発 表 日
経済学部	経済経営学科	40	1月5日（木）～1月19日（木） 《消印有効》	2月3日（金）	2月9日（木）
	法律学科	28			
法学部	政治学科	14			
	英米文学科	8			
文学部	日本文学科	8			
	国際文化学科	6			
	現代社会学科	10			
	物質生命理工学科	12			
理工学部	情報科学科	12			
	システムデザイン学科*	12			

● A 方式（一般選抜入試）：3 教科型

学 部	学 科	募集人員	出 願 期 間	試 験 日	合 格 発 表 日
経済学部	経済経営学科	地歴公民型 130	1月5日（木）～1月27日（金） 《消印有効》	2月13日（月）	2月20日（月）
		数学型 45			
法学部	法律学科	110		2月14日（火）	2月21日（火）
		政治学科 58			
文学部	英米文学科	53		2月12日（日）	2月19日（日）
	日本文学科	43			
	国際文化学科	50			
	現代社会学科	46			
理工学部	物質生命理工学科	43		2月11日（土）	2月18日（土）
	情報科学科	43			
	システムデザイン学科*	43			

● C 方式（センター試験利用 3 教科型入試）／ S方式**（センター試験利用理工学部奨学金付入試）

学 部	学 科	募集人員		出 願 期 間	試 験 日	合 格 発 表 日
		C方式	S方式**			
経済学部	経済経営学科	40	—	1月5日（木）～1月13日（金） 《消印有効》	1月14日（土） 1月15日（日） 〔大学入試センター試験日〕 本学での個別学力試験は実施しない。	2月9日（木）
	法律学科	36	—			
法学部	政治学科	24	—			
	英米文学科	10	—			
文学部	日本文学科	8	—			
	国際文化学科	10	—			
	現代社会学科	8	—			
	物質生命理工学科	27	3			
理工学部	情報科学科	27	3			
	システムデザイン学科*	27	3			

● AO マルデス入試

学 部	学 科	募 集 人 員		出 願 期 間	一 次 審 査	一次審査 合格発表	二 次 審 査	二次審査 合格発表
		一 般	特 別					
経済学部	経済経営学科	25	帰国生特別受験 社会人特別受験 外国人特別受験 各学科：若干名	9月28日（水）～ 10月12日（水） 《消印有効》 ただし10月13日（木） は本学で窓口受付を 行います。	10月29日（土）	11月4日（金）	11月12日（土）	11月18日（金）
法学部	法律学科	6						
	政治学科	4						
文学部	英米文学科	6						
	日本文学科	3						
	国際文化学科	6						
	現代社会学科	6						
理工学部	物質生命理工学科	10						
	情報科学科	10						
	システムデザイン学科*	10						

*2012年度より、エレクトロメカニクス学科から学科名称変更予定。 **文系学部は2011年度をもってS方式を廃止。

高等学校・中学校・小学校

募 集 年 次		募 集 人 員		出 願 期 間	試 験 日	合格発表日
高等学校	第1学年	男女合わせて約70名		1月25日（水）～ 1月30日（月）《消印有効》 2月3日（金）10：00～15：00《窓口受付》	2月10日（金）	2月11日（土）
	第1学年帰国生	男女合わせて若干名		2月6日（月）、7日（火）9：00～15：00 ※ 2月13日（月）10：00～15：00 ※	2月14日（火）	2月15日（水）
	第2学年編入	男女合わせて若干名		2月27日（月）～ 3月8日（木）※	3月14日（水）	3月15日（木）
	第1学年	第1回：男子約50名 女子約35名 第2回：男子約25名 女子約20名		1月20日（金）～ 1月23日（月）《消印有効》 2月3日（金）10：00～15：00 ※（第2回のみ）	第1回：2月1日（水） 第2回：2月4日（土）	第1回：2月2日（木） 第2回（HP）：2月4日（土） 第2回（掲示）：2月5日（日） 2011年 7月4日（月）
中学校	国際学級 第1学年	9月期入学	男女合わせて若干名	2011年6月10日（金）～6月16日（木）※	2011年 7月2日（土）	2011年 7月4日（月）
		4月期入学	男女合わせて約10名 ※状況により2次募集を実施	12月8日（木）～12月14日（水）※	1月10日（火）	1月11日（水）
	第2学年帰国生編入	男女合わせて若干名		12月8日（木）～12月14日（水）※	1月10日（火）	1月11日（水）
小学校	第1学年	112名（男子56名／女子56名）		9月28日（水）～ 9月30日（金）	男子：11月1日（火）午前と 2日（水）～4日（金）の1日 女子：11月1日（火）午後と 2日（水）～4日（金）の1日 保護者面談（男女とも） 11月2日（水）～4日（金）の1日	11月5日（土）
	国際学級 第4学年	4月期入学	第4学年16名	1月10日（火）～ 2月24日（金）	3月3日（土）	3月5日（月）

※窓口受付のみ

2011 年度
入学試験結果

●大学

●大学

2011年3月12日現在

学部学科		入学定員	一般入試						AOマルデス入試			
			方式	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率	募集人員	志願者	受験者	合格者
経済学部	経済経営学科	480	E	40	1,508	1,470	189	7.8	25	118	116	28
			A※	175	3,959	3,528	489	7.2				
			C	35	1,688	1,686	257	6.6				
			S	5	86	86	14	6.1				
	計	480		255	7,241	6,770	949	7.1	25	118	116	28
法学部	法律学科	275	E	24	776	753	119	6.3	6	44	44	6
			A	110	1,864	1,654	275	6.0				
			C	36	1,226	1,224	258	4.7				
			S	4	104	103	10	10.3				
	政治学科	155	E	12	339	331	54	6.1	4	28	27	6
			A	58	922	819	192	4.3				
			C	24	530	529	122	4.3				
			S	2	38	38	6	6.3				
計	430		270	5,799	5,451	1,036	5.3	10	72	71	12	
文学部	英米文学科	130	E	7	383	377	45	8.4	6	39	39	7
			A	55	759	654	163	4.0				
			C	10	540	540	173	3.1				
			S	2	26	26	5	5.2				
	日本文学科	90	E	6	353	346	27	12.8	3	14	13	3
			A	43	784	714	110	6.5				
			C	8	625	623	73	8.5				
			S	2	29	29	5	5.8				
	国際文化学科	110	E	6	412	407	42	9.7	6	52	51	6
			A	50	764	686	150	4.6				
			C	8	711	711	117	6.1				
			S	2	53	53	7	7.6				
	現代社会学科	110	E	8	478	463	54	8.6	6	43	42	7
			A	46	670	603	140	4.3				
			C	8	551	550	118	4.7				
			S	2	34	33	8	4.1				
計	440		263	7,172	6,815	1,237	5.5	21	148	145	23	
理工学部	物質生命理工学科	130	E	12	201	193	50	3.9	10	35	35	16
			A	43	671	568	97	5.9				
			C	27	756	756	204	3.7				
			S	3	101	101	26	3.9				
	情報科学科	130	E	12	240	234	56	4.2	10	32	28	14
			A	43	648	546	122	4.5				
			C	27	750	749	190	3.9				
			S	3	59	59	11	5.4				
	エレクトロメカニクス学科	130	E	12	230	223	45	5.0	10	42	39	16
			A	43	562	479	118	4.1				
			C	27	767	767	176	4.4				
			S	3	54	54	9	6.0				
計	390		255	5,039	4,729	1,104	4.3	30	109	102	46	
大学計				1,043	25,251	23,765	4,326	5.5	86	447	434	109

※経済学部A方式は「地歴公民型」と「数学型」の合計です。

●大学院

	専攻名	博士前期課程				博士後期課程				経済・マネジメントコース社会人プログラム（博士前期課程 社会人1年制）				
		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	
経済経営 研究科	経済学専攻	6	2	2	1	3	0	0	0	若干名	0	0	0	
	経営学専攻	10	12	10	5	3	1	1	1		0	0	0	
	計	16	14	12	6	6	1	1	1		0	0	0	
法学政治学 研究科	法律学専攻	8	8	8	5	4	1	1	1	理工学研究科社会人選抜（博士前期課程・博士後期課程）	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
	政治学専攻	4	4	3	1	2	1	1	1					
	計	12	12	11	6	6	2	2	2					
文学 研究科	英米文学専攻	8	4	4	4	4	0	0	0	若干名	0	0	0	
	日本文学専攻	8	8	6	6	4	3	3	2					
	社会文化論専攻	8	8	8	5	4	2	2	0					
理工学 研究科	計	24	20	18	15	12	5	5	2	若干名	0	0	0	
	理工学 専攻	物質生命コース	70	43	43	40	2	2	2					
		情報科学コース		47	46	39	0	0	0					
		エレクトロメカニクスコース		37	36	30	1	1	1					
		計		70	127	125	109	10	3					3
法務研究科		45	214	188	87					※法務研究科は法学未修者・法学既修者合計				
合 計		167	387	354	223	34	11	11	8					